

国語科

教科名	国語	科目名	現代文
科目の目標	近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を身につける。		
履修学年	2年	類型	文系・理系共通
単位数	2単位	履修形態	必修
教科書	精選現代文B (大修館書店)	副教材等	新訂総合国語便覧(第一学習社)

①学習の目標

- (1) 国語を正確に理解し、的確に表現する能力を発展させる。
- (2) 言語感覚を磨き、思考力を伸ばし、伝え合う力を高める。
- (3) 近代以降の様々な文章を読み、読書に親しむ態度を身につけ、言語文化への関心を高める。

②学習内容と授業の進め方

- (1) 論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえる。
- (2) 文学的な文章について、人物、情景、心情などを的確にとらえ、表現を味わう。
- (3) 様々な文章を読むことを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする。
- (4) 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえる。
- (5) 目的や課題に応じて様々な情報を収集し活用して、進んで表現する。
- (6) 優れた表現に接してその条件を考え、自分の表現に役立てる。
- (7) 目的や場に応じた話し方や言葉遣いなどを身に付ける。
- (8) 常用漢字の読みに慣れ主な常用漢字が書けるようにする。

③学習に当たっての留意点

- (1) 常に主体的に学習に取り組むことを心がけ、自分の考えを持ち、積極的に発言、表現する姿勢を持つこと。
- (2) 様々な表現技巧、語句、語彙について辞書や便覧などで調べ、読解に役立てるとともに、日常の言語活動に利用すること。
- (3) 論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確に捉えること。また、書き手の考えやその展開などについて意見を書くこと。
- (4) 文学的文章について、人物、情景、心情などを的確に捉え、表現を味わうこと。また、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合うこと。
- (5) 様々な文章を読んで人物、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させるとともに興味関心を広げるために、関連する文章を読んだり創作的な活動を行ったりすること。
- (6) 課題は期限を守って確実に提出すること。

④評価の観点

⑴「関心・意欲・態度」【関】

自らの国語力の向上を図るため、予習・復習をしっかりと行い、授業に関しても、その内容を積極的に理解し、自らを高めようとする姿勢が見受けられることを基本とする。様々な課題に関しても、取り組みが充分であり、自主的に質問をしたりするなど、理解しようとする態度も評価する。さらに、教材や作者に関して主体的に調べたり、発展的に学習を進めたりすることができることが望ましい。

⑵「話すこと・聞くこと」【話】

「話すこと」に関しては、目的や場に応じて、自分の意見を述べるができることを基本とする。さらに、様々な問題について自分の考えをまとめ、構成を考え、筋道立てて相手に分かりやすく話すことができることが望ましい。また、「聞くこと」に関しては、まとまった長さの説明を聞いて、内容を正確に理解できることを基本とする。さらに、その内容に共感したり、問題点を指摘したりすることができることが望ましい。

③ 「書くこと」【書】

誤字・脱字や、主述や文脈の乱れがなく、相手や目的に応じて言葉や文体を使い分けて書くことができることを基本とする。さらに、論理的な構成を工夫したり、効果的な表現を交えて書くことができることが望ましい。

④ 「読むこと」【読】

表現に留意して、様々な文章の内容を読み取り、ものの見方・感じ方・考え方を広げ、描かれた人物・情景・心情などを味わっていくことができることを基本とする。さらに、難解な文章でも文脈に即して的確に読み取り、自らの考えを深めていくことができることが望ましい。

⑤ 「知識・理解」【知】

近代以降の様々な文章の読解を通して、語彙・表現・文学史等を理解し、今後の文章読解・鑑賞・表現に役立てられる知識として蓄積することを目指す。

⑤ 評価の方法

「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「知識・理解」の5つの観点で、以下の学習の状況を総合的に評価する。

- (1) 学習活動に対する取組姿勢
- (2) 提出された課題の内容
- (3) 定期考査、課題テスト及び小テストの結果

⑥ 授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	伝え合いながら解釈しよう	詩5編より	学習内容に意欲的に取り組むことができたか。【関】 表現に留意し、内容を正しく理解することができたか。【読】 表現を味わい、情景や心情を理解することができたか。【読】 読解をもとに、読みとった内容を正しく表現できたか。【書】 読解した内容を、わかりやすく表現できたか。【話】 読解した内容をもとに、自分の意見を表現できたか。【書】【話】
5	グラフを捉えよう	「家族化するペット」(山田昌弘)	前期中間考査など
6	主張と例示を見分けよう	「システムとしてのセルフサービス」(長谷川一)	
7	文学を読もう(1)	「山月記」(中島敦)	学習内容に意欲的に取り組むことができたか。【関】 表現に留意し、内容を正しく理解することができたか。【読】 表現を味わい、情景や心情を理解することができたか。【読】 読解をもとに、読みとった内容を正しく表現できたか。【書】 読解した内容を、わかりやすく表現できたか。【話】 前期期末考査など
8	構造を考えよう(1)	「分かち合う社会」(山際寿一)	
9			
10	文学を読もう(2)	「山椒魚」(井伏鱒二)	学習内容に意欲的に取り組むことができたか。【関】 表現に留意し、内容を正しく理解することができたか。【読】 表現を味わい、情景や心情を理解することができたか。【読】 読解をもとに、読みとった内容を正しく表現できたか。【書】 読解した内容を、わかりやすく表現できたか。【話】 読解した内容をもとに、自分の意見を表現できたか。【書】【話】 後期中間考査など
11	構造を考えよう(2)	「敬語への自覚、他者への自覚」(橋本治)	
12	文学を読もう(3)	「こころ」(夏目漱石)	学習内容に意欲的に取り組むことができたか。【関】 表現に留意し、内容を正しく理解することができたか。【読】 表現を味わい、情景や心情を理解することができたか。【読】 読解をもとに、読みとった内容を正しく表現できたか。【書】 読解した内容を、わかりやすく表現できたか。【話】 読解した内容をもとに、自分の意見を表現できたか。【書】【話】 後期期末考査など
1	各段落を要約しよう	「世界は、いま」(青木保)	
2			
3			

* 通年で、適宜、教材を追加する

国語科

教科名	国語科	科目名	古典
科目の目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。		
履修学年	2年	類型	文系
単位数	4単位	履修形態	必修
教科書	精選古典B 古文編漢文編 (明治書院)	副教材等	新精選古典文法改訂版(東京書籍)・漢文必携(桐原書店)・古文単語マスター333(数研出版)

①学習の目標

- (1) 文章や作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情を読みとり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。
- (2) 文章や作品の表現上の特色を理解し優れた表現に親しむ。
- (3) 古典を読んで、日本文化の特質や日本文化と中国文化の関係について考える。

②学習内容と授業の進め方

- (1) 古文や漢文に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。
- (2) 文章や作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。
- (3) まとまった文章理解につとめ、文章に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情を表現に即して読み、味わう。
- (4) 古典常識にも理解を深め、文章の構成を確かめたり、表現の特色をとらえたりする。
- (5) 作品の成立や評価についても探求し、日本文化の特質や、日本文化と中国文化の関係について考える。
- (6) 自ら読み取った思想や感情などについて、感じ、考えたことを文章にまとめ、発表する。

③学習に当たっての留意点

- (1) 常に主体的に学習に取り組むことを心がけ、古文では①音読、②文法的説明、③口語訳を、漢文では①音読、②書き下し文、③口語訳の予習を怠らないこと。(不明点を明確にする。)
- (2) 様々な表現技巧、語句、語彙について辞書や便覧などで調べ、読解に役立てるとともに、文章成立の歴史的背景への理解を深めること。
- (3) 授業では、予習時の不明点の解明して文章の内容を理解し、古文・漢文の語彙・文法事項の習熟に力を入れること。
- (4) 文法事項の学習に当たっては補助教材を活用し、計画的・体系的な知識の習得に努めること。
- (5) 小テスト等にも意欲的に臨み、課題等は期限を守って確実に提出すること。

④評価の観点

- (1) 「関心・意欲・態度」【関】

自らの国語力の向上を図るため、予習・復習をしっかりと行い、授業に関しても、その内容を積極的に理解し、自らを高めようとする姿勢が見受けられることを基本とする。様々な課題に関しても、取り組みが充分であり、自主的に質問をしたりするなど、理解しようとする態度も評価する。さらに、教材や作者に関して主体的に調べたり、発展的に学習を進めたりすることができることが望ましい。

- (2) 「読むこと」【読】

表現に留意して、様々な文章の内容を読み取り、ものの見方・感じ方・考え方を広げ、描かれた人物・情景・心情などを味わっていくことができることを基本とする。さらに、難解な文章でも文脈に即して的確に読み取り、自らの考えを深めていくことができることが望ましい。

- (3) 「知識・理解」【知】

古今の様々な文章の読解を通して、語彙・文法・表現・文学史等を理解し、今後の文章読解・鑑賞・表現に役立てられる知識として蓄積することを目指す。

⑤評価の方法

【関心・意欲・態度】【読む能力】【知識・理解】の3つの観点で、以下の学習の状況を総合的に評価する。

- (1) 学習活動に対する取組姿勢
- (2) 提出された課題の内容
- (3) 定期考査、課題テスト及び小テストの結果

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	(古文) 説話	博雅の三位と鬼の笛(十訓抄) 袴垂、保昌に会ふこと(宇治拾遺物語)	展開の分かりやすい説話を読み、古文に親しもうとしているか。【関】 語彙・語法・文法・表現の特徴などを理解できたか。【知】 場面の状況と登場人物の行動・心情を把握できたか。【読】
5	(古文) 随筆	世に語り伝ふること(徒然草) あだし野の露消ゆるときなく(徒然草)	随筆を読み、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしているか。【関】 語彙・語法・文法・表現の特徴などを理解できたか。【知】 作者の人間観・社会観を理解できたか。【読】
6	(漢文) 故事・逸話	推敲・杞憂	展開の分かりやすい故事・逸話を読み、漢文に親しもうとしているか。【関】 語彙・語法・文法・句形などを理解できたか。【知】 古人のものの見方、考え方、感じ方を理解できたか。【読】 【前期中間考査】
	(古文) 随筆	世に従はん人は(徒然草) ゆく河の流れ(方丈記)	随筆を読み、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしているか。【関】 語彙・語法・文法・表現の特徴などを理解できたか。【知】 作者の人間観・社会観を理解できたか。【読】
	(漢文) 詩	詩6編	音読を通して、表現の美しさを味わおうとしているか。【関】 語彙・語法・文法・句形などを理解できたか。【知】 作者の思考、心情、美意識について理解できたか。【読】
8	(古文) 歌物語	初冠(伊勢物語)	歌物語の特徴を理解し、その世界を味わおうとしているか。【関】 語彙・語法・文法・表現の特徴などを理解できたか。【知】 場面の状況と登場人物の行動・心情を把握できたか。【読】
9			【前期期末考査】
10	(古文) 物語	光源氏誕生(源氏物語) 小柴垣のもと(源氏物語)	『源氏物語』の概要について理解し、その世界を味わおうとしているか。【関】 語彙・語法・文法・表現の特徴などを理解できたか。【知】 文章の内容を構成や展開に即して的確にとらえられたか。【読】
11	(漢文) 史記	鴻門之会 四面楚歌	作者や作品について理解を深めようとしているか。【関】 語彙・語法・文法・句形などを理解できたか。【知】 登場人物の行動や心情を理解できたか。【読】 【後期中間考査】
12	(古文) 随筆	中納言参り給ひて	随筆を読み、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしているか。【関】 語彙・語法・文法・表現の特徴などを理解できたか。【知】 文章の内容を構成や展開に即して的確にとらえられたか。【読】
	(古文) 日記	源氏物語を読む	作者の物語に対する初々しい憧れを味わおうとしているか。【関】 語彙・語法・文法・表現の特徴などを理解できたか。【知】 文章の内容を構成や展開に即して的確にとらえられたか。【読】
	(漢文) 寓話	曳尾於塗中(莊子) 且買履(韓非子) 春夜宴桃李園序(李白)	思想家が用いた巧みな寓話の面白さを味わおうとしているか。【関】 語彙・語法・文法・句形などを理解できたか。【知】 比喩や具体例を用いた論述の仕方について理解できたか。【読】
	(古文) 軍記物語	忠度の都落ち 先帝身投げ	音読により、軍記物語に特徴的なリズム感を味わおうとしているか。【関】 語彙・語法・文法・表現の特徴などを理解できたか。【知】 文章の内容を構成や展開に即して的確にとらえられたか。【読】 【学年末考査】
3	(古文) 和歌	古今和歌集 仮名序	和歌の内容とともに、当時の社会状況にも目を向けようとしているか。【関】 和歌の修辞技法を理解できたか。【知】 各歌に詠まれた情景や作者の心情を理解できたか。【読】

国語科

教科名	国語科	科目名	古典
科目の目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を身につける。		
履修学年	2年	類型	理系
単位数	2単位	履修形態	必修
教科書	精選古典B 古文編漢文編 (明治書院)	副教材等	新精選古典文法改訂版(東京書籍)・漢文必携(桐原書店)・古文単語マスター333(数研出版)

①学習の目標

- (1) 文章や作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情を読みとり、ものの見方、感じ方考え方を豊かにする。
- (2) 文章や作品の表現上の特色を理解し優れた表現に親しむ。
- (3) 古典を読んで、日本文化の特質や日本文化と中国文化の関係について考える。

②学習内容と授業の進め方

- (1) 古文や漢文に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。
- (2) 文章や作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。
- (3) まとまった文章理解につとめ、文章に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情を表現に即して読み、味わう。
- (4) 古典常識の理解を深め、文章の構成を確かめたり、表現の特色をとらえたりする。
- (5) 作品の成立や評価についても探求し、日本文化の特質や、日本文化と中国文化の関係について考える。
- (6) 自ら読み取った思想や感情などについて、感じ、考えたことを文章にまとめ、発表する。

③学習に当たっての留意点

- (1) 常に主体的に学習に取り組むことを心がけ、古文では、①音読、②本文書写、③口語訳を、漢文では、①音読、②本文書写、③書き下し文、④口語訳の予習を怠らないこと。(不明点を明確にする。)
- (2) 様々な表現技巧、語句、語彙について辞書や便覧などで調べ、読解に役立てるとともに、文章成立の歴史的背景への理解を深めること。
- (3) 授業では、予習時の不明点の解明して文章の内容を理解し、古文・漢文の語彙・文法事項の習熟に力を入れること。
- (4) 文法事項の学習に当たっては補助教材を活用し、計画的・体系的な知識の習得に努めること。
- (5) 小テスト等にも意欲的に臨み課題等は期限を守って確実に提出すること。

④評価の観点

①「関心・意欲・態度」【関】

自らの国語力の向上を図るため、予習・復習をしっかりと行い、授業に関しても、その内容を積極的に理解し、自らを高めようとする姿勢が見受けられることを基本とする。様々な課題に関しても、取り組みが充分であり、自主的に質問をしたりするなど、理解しようとする態度も評価する。さらに、教材や作者に関して主体的に調べたり、発展的に学習を進めたりすることができることが望ましい。

②「話すこと・聞くこと」【話】

「話すこと」に関しては、目的や場に応じて、自分の意見を述べることを基本とする。さらに、様々な問題について自分の考えをまとめ、構成を考え、筋道立てて相手に分かりやすく話すことができることが望ましい。また、「聞くこと」に関しては、まとまった長さの説明を聞いて、内容を正確に理解できることを基本とする。さらに、その内容に共感したり、問題点を指摘したりすることができることが望ましい。

③「書くこと」【書】

誤字・脱字や、主述や文脈の乱れがなく、相手や目的に応じて言葉や文体を使い分けて書くことができることを基本とする。さらに、論理的な構成を工夫したり、効果的な表現を交えて書くことができることが望ましい。

④「読むこと」【読】

表現に留意して、様々な文章の内容を読み取り、ものの見方・感じ方・考え方を広げ、描かれた人物・情景・心情などを味わっていくことができることを基本とする。さらに、難解な文章でも文脈に即して的確に読み取り、自らの考えを深めていくことができることが望ましい。

▼(5) 「知識・理解」【知】

古今の様々な文章の読解を通して、語彙・文法・表現・文学史等を理解し、今後の文章読解・鑑賞・表現に役立てられる知識として蓄積することを目指す。

⑤評価の方法

「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「知識・理解」の5つの観点で、以下の学習の状況を総合的に評価する。

- (1) 学習活動に対する取組姿勢
- (2) 提出された課題の内容
- (3) 定期考査、課題テスト及び小テストの結果

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など（観点項目を記入）
4	古文 説話 随筆	「袴垂、保昌に会ふこと」 【宇治拾遺物語】 「これも仁和寺の法師」 「あだし野のつゆ消ゆるときなく」【徒然草】	自ら繰り返し音読し、文語文の表現、語彙に慣れたか。【関】 語彙・語法・文法・表現の特徴などを理解できたか。【知】 漢文訓読法に習熟できたか。【知】 古人のものの見方、考え方、感じ方を理解できたか。【知】
5	漢文	「漱石枕流」【世説新語】	漢文に親しみ、異なる文化の差異に着目できたか。【知】
6	故事・説話	「塞翁馬」【淮南子】	【前期中間考査】
7	古文 歌物語	「孟母断機」【列女伝】 「初冠」【伊勢物語】 「小野の雪」【伊勢物語】	自ら繰り返し音読し、文語文の表現、語彙に慣れたか。【関】 語彙・語法・文法・表現の特徴などを理解できたか。【知】 漢文訓読法に習熟できたか。【知】 辞書・参考資料を活用し、効果的な予習・復習に努めたか。【関】【書】
8	漢文 漢詩	「竹里館」「望廬山瀑布」	古人のものの見方、考え方、感じ方を理解できたか。【知】
9	古文 歌物語	「登岳陽樓」「春夜」「遊山西村」 「姨捨山の月」【大和物語】	漢詩に親しみ、異なる文化の差異に着目できたか。【知】 【前期期末考査】
10	漢文 史伝	「鴻門之会」【史記】 「四面楚歌」【史記】	自ら繰り返し音読し、文語文の表現、語彙に慣れたか。【関】 語彙・語法・文法・表現の特徴などを理解できたか。【知】 漢文訓読法に習熟できたか。【知】 辞書・参考資料を活用し、効果的な予習・復習に努めたか。【関】【書】
11	古文 随筆 物語	「木の花は」【枕草子】 「中納言参り給ひて」【枕草子】 「光源氏誕生」【源氏物語】	古人のものの見方、考え方、感じ方を理解できたか。【知】 史伝に親しみ、作中人物像に迫ることができたか。【知】 【後期中間考査】
12	古文 日記	「門出」【更級日記】 「源氏物語を読む」【更級日記】	自ら繰り返し音読し、文語文の表現、語彙に慣れたか。【関】 語彙・語法・文法・表現の特徴などを理解できたか。【知】 漢文訓読法に習熟できたか。【知】
1	漢文 寓話	「不死之薬」【戦国策】	辞書・参考資料を活用し、効果的な予習・復習に努めたか。【関】【書】
2		「且買履」【韓非子】	古人のものの見方、考え方、感じ方を理解できたか。【知】
3			【学年末考査】
		・各期とも、古文単語、古典文法、漢文句形、漢文語彙等の学習を進め、小テストを実施する。	

数学科

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ・B
科目の目標	基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を身につける。		
履修学年	2年	類型	文系・理系共通
単位数	数学Ⅱ4単位、数学B2単位	履修形態	必修
教科書	数学Ⅱ、数学B(数研出版)	副教材等	4STEP数学Ⅱ+B(数研出版)

①学習の目標

数学Ⅱでは、「方程式・式と証明、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数及び微分と積分」について、数学Bでは、「数列、ベクトル」について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を身につける。

②学習内容と授業の進め方

- (1) 「方程式・式と証明」では、式と証明についての理解を深め、方程式の解を発展的にとらえ、数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くことや因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。
- (2) 「図形と方程式」では、座標や式を用いて直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に考察し処理するとともに、その有用性を認識し色々な図形の考察に活用できる
- (3) 「いろいろな関数」では、三角関数、指数関数及び対数関数について理解し、関数についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。
- (4) 「微分・積分」では、具体的な事象の考察を通して微分・積分の考えを理解し、それを用いて関数の値の変化を調べることや面積を求めることができるようにする。
- (5) 「数列」では、簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを用いて事象を数学的に考察し処理できるようにする。
- (6) 「ベクトル」では、ベクトルについての基本的な概念を理解し、基本的な図形の性質や関係を用いて表現し、いろいろな事象の考察に活用できるようにする。

③学習に当たっての留意点

- (1) 一つの章・分野からの視点のみならず、1年次で学習した事項との関連性や他分野との融合に留意し問題解決に向け多面的な分析・処理ができるように意識すること。
- (2) 微分・積分では、2次関数、3次関数にこだわることなく一般の整関数についても公式が活用できるようになるなど分野によっては発展的な内容や、3年次の内容を先取りして学習する等、教科書から一歩進んだ事項まで積極的に学習すること。
- (3) 授業は予習・復習を前提に行われるので、毎日家庭学習の時間を確保するとともに、進路実現を意識し自学自習の習慣を身につけること。

④評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
 - 【関】 高校数学の基礎的な知識を中心とした内容に関心を持ち様々な問題解決に積極的に活用することができる。
- (2) 数学的な見方や考え方
 - 【数】 数学的な見方や考え方を身につけ、具体的な事象を考察することができる。
- (3) 表現・処理
 - 【表】 数学の法則などを用いて表現し、様々な計算を通して的確に処理できる。
- (4) 知識・理解
 - 【知】 高校数学の基礎的な知識を身につけ、理解できる。

⑤評価の方法

定期考査、単元テスト、夏休み・冬休み明けテスト、課題プリントなどの提出物の内容、学習活動への「関心・意欲・態度」、数学的な「見方や考え方」、「表現・処理」及び「知識・理解」の観点から総合的に評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など（観点項目を記入）
4	数Ⅱ 第3章 図形と方程式		
	第1節 点と直線		
	1. 直線上の点	- 数直線上の2点の距離 - 線分の内分点、外分点	内分点の求め方と同様な考え方で、外分点を考察することができる。〔見〕 線分の外分点の公式を適用する際に、分母を正にして計算しようとする。〔表〕 数直線上において、2点間の距離、線分の内分点、外分点の座標が求められる。〔知〕
	2. 平面上の点	- 座標平面上の2点の距離 - 線分の内分点、外分点 - 点に関して対称な点	数直線上の点に関する公式を利用して、平面上の問題を考察しようとする。〔関〕 座標平面上において、2点間の距離が求められる。〔知〕 図形の問題を座標平面上で代数的に解決する解法のよさを知ろうとする。〔関〕 図形の性質を証明する際に、計算が簡単になるように座標軸を適切に設定できる。〔見〕 距離の公式を利用して、図形の性質を証明できる。〔知〕 座標平面上において、線分の内分点、外分点の座標が求められる。〔知〕 三角形の重心の座標の公式を理解している。〔知〕 点の座標を求めるのに、図形の性質を適切に利用できる。〔見〕 図形的条件（点対称、線対称など）を式で表現できる。〔表〕
	3. 直線の方程式	x, yの1次方程式の表す図形 - 直線の方程式	直線が x, y の1次方程式で表されることを理解している。〔見〕 x 軸に垂直な直線は $y=mx+n$ の形に表せないことを理解している。〔表〕 公式を利用して、直線の方程式を求めようとする。〔関〕 与えられた条件を満たす直線の方程式の求め方を理解している。〔知〕
	4. 2直線の関係	2直線の平行と垂直 2直線の共有点と連立1次方程式の解 - 直線に関して対象な点 - 点と直線の距離 - 図形の性質の証明	2直線の平行・垂直の関係を、直線の傾きに注目して考察しようとする。〔関〕 2直線の平行・垂直条件を理解していて、それを利用できる。〔知〕 連立方程式の実数解の個数を、2直線の共有点の個数との関係で調べようとする。〔関〕 連立方程式の解の状況を、2直線の位置関係から考察することができる。〔表〕 連立方程式の実数解の個数と、2直線の共有点の個数の関係を理解している。〔知〕 直線に関して対称な点の座標を求めることができる。〔知〕 点と直線の距離の公式を理解していて、それを利用できる。〔知〕 三角形の垂心について、直線の方程式を利用して代数的に考察しようとする。〔関〕 直線の方程式を利用して、図形の性質を証明することができる。〔知〕
	問題 演習問題		
	第2節 円		
	5. 円の方程式	- 円の方程式 - 円の方程式(一般形) 3点を通る円の方程式	円の方程式が x, y の2次方程式で表されることを理解している。〔見〕 与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。〔知〕 x, y の2次方程式を変形して、その方程式が表す図形を調べることができる。〔表〕 x, y の2次方程式が、常に円を表すとは限らないことを考察しようとする。〔関〕 x, y の2次方程式が、どのような図形を表すかを調べる方法を理解している。〔知〕

5			図形 $F(x, y)=0$ が点 (s, t) を通ることを $F(s, t)=0$ として処理できる。〔表〕 3点を通る円はこの3点を頂点とする三角形の外接円であることを理解している。〔見〕 3点を通る円の方程式を求めることができる。〔知〕
	6. 円と直線	- 円と直線の共有点 - 円と直線の位置関係 - 円の中心と直線の距離 - 円の接線の方程式 2つの円の交点を通る直線	円と直線の位置関係を、2次方程式の判別式や、円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係により調べようとする。〔知〕 円と直線の共有点の座標を求めることができる。〔知〕 円と直線の共有点の個数を、2次方程式の実数解の個数で考察することができる。〔見〕 円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係を代数的に処理することで、円と直線の位置関係を考えることができる。〔表〕 円と直線の位置関係を、適切な方法で判定できる。〔知〕 円の接線の公式を理解していて、それを利用できる。〔知〕 円外の点から引いた接線の方程式を求めることができる。〔知〕 2つの円の交点を通る円の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。〔関〕 2つの円、または円と直線の交点を通る円の方程式を求めることができる。〔知〕 2つの円の共有点の座標を求めることに関心をもち、考察しようとする。
	7. 2つの円	2つの円の位置関係 2つの円の共有点	$F(x, y)+kG(x, y)=0$ の形を利用して、円や直線の方程式を求めることができる。〔表〕
	問題 演習問題		
	第3節 軌跡と領域		
	8. 軌跡と方程式	軌跡と方程式	点が満たす条件から得られた方程式がどのような図形を表しているかを考察しようとする。〔関〕 直線や円などを、条件を満たす点の集合として考えることができる。〔見〕 平面上の点の軌跡を、座標平面を利用して考察することができる。〔見〕 軌跡を求めるには、逆についても調べる必要があることを理解している。〔見〕 点が満たす条件から得られた方程式を、図形として考察することができる。〔表〕 軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。〔知〕 媒介変数処理が必要な軌跡の求め方を理解している。〔知〕
	9. 不等式の表す領域	- 直線を境界とする領域 - 円の内部、外部 - 連立不等式の表す領域 - 領域の最大最小 - 領域を利用した命題の証明法	不等式を満たす点の集合を、平面上の領域としてみることができる。〔見〕 不等式の表す領域を図示することができる。〔知〕 図で与えられた領域を不等式で表すことができる。〔表〕 連立不等式の表す領域を図示することができる。〔知〕 線形計画法では、条件として与えられた不等式の表す領域を図示することにより、鮮やかに最大値・最小値を求めること 線形計画法では (x, y) の1次式 $=k$ において、この式が直線を表すことを利用できる。〔表〕 領域を利用する1次式の最大値・最小値の求め方を理解している。〔知〕 不等式を含む命題を、不等式の表す領域を用いて証明することに興味・関心をもち、考察しようとする。〔関〕 条件の真理集合を考えることにより、命題の真偽を真理集合の包含関係として考察することができる。〔見〕 領域を利用して、命題を証明することができる。〔知〕 放物線を境界線とする領域に関心をもち、考察しようとする。〔関〕
	問題 演習問題		

研究 放物線を境界線とする領域

6	数B 第1章 図形と方程式		
	第1節 平面上のベクトルと演算		
	1. 平面上のベクトル	・有効線分とベクトル ・ベクトルの表示	平面上の図形の移動，力，速度など身近な例からベクトルで表されるものを見つけようとする。〔関〕 ベクトルの向き，相等について理解している。〔知〕
	2. ベクトルの演算	・ベクトルの加法 ・逆ベクトル，零ベクトル ・ベクトルの減法 ・ベクトルの実数倍 ・ベクトルの平行 ・ベクトルの分解	ベクトルの演算に興味・関心をもち，数式の演算法則との類似性を考察しようとする。〔関〕 和や差における逆ベクトルや零ベクトルの役割を理解している。〔見〕 有向線分で表されたベクトルについて，加法，減法，実数倍を考察することができる。〔知〕 ベクトルの加法，減法，実数倍の計算の仕組みを理解している。〔知〕 ベクトルの平行条件について理解している。〔知〕 1つのベクトルと同じ向きの単位ベクトルを式で表現して利用できる。〔表〕 有向線分表示されたベクトルを，2つのベクトルの和，差に表現できる。〔表〕 ベクトルの分解について理解している。〔知〕
	3. ベクトルの成分	・ベクトルの成分 ・ベクトルの成分と相当大きさ ・成分によるベクトルの演算 ・点の座標とベクトルの成分	ベクトルと座標平面を関連させ，ベクトルが成分で表現できることに興味，関心をもつ。〔関〕 成分表示されたベクトルの大きさ，和，差，実数倍の計算ができる。〔知〕 成分表示されたベクトルを，2つのベクトルの和，差に表現できる。〔表〕 成分表示された2つのベクトルの平行条件について理解している。〔知〕 点の座標とベクトルの成分の関係について理解している。〔知〕
	4. ベクトルの内積	・ベクトルの内積 ・ベクトルの平行・垂直と内積 ・内積と成分 ・ベクトルのなす角 ・ベクトルの垂直条件 ・内積の性質 ・ベクトルの大きさと内積 研究 三角形の面積	ベクトルの内積のもつ図形的意味を探ろうとする態度がある。〔関〕 内積は実数であることを理解している。〔見〕 大きさとなす角でベクトルの内積を計算することができる。〔知〕 成分表示されたベクトルの内積を計算することができる。〔知〕 ベクトルのなす角を，内積を利用して求めることができる。〔知〕 ベクトルの垂直条件を理解し，計算に利用できる。〔知〕 内積の性質を理解し，計算に利用できる。〔知〕 内積で大きさが考察できることを理解している。〔見〕 ベクトルの大きさを内積におき換えて扱うことができる。〔表〕 ベクトルの大きさと内積の関係式からベクトルのなす角を求めることができる。〔知〕
	問題 演習問題		
	第2節 ベクトルと平面図形		
	5. 位置ベクトル	・位置ベクトル ・線分の内分点，外分点の位置ベクトル	線分の内分点，外分点を位置ベクトルで表す公式を理解している。〔知〕 三角形の重心の位置ベクトルを表す公式を理解している。〔知〕 ベクトルで表された等式を，位置ベクトルを用いて証明できる。〔知〕
	6. ベクトルと図形	・3点が一直線上にあるための条件 ・2直線の交点の位置ベクトル	位置ベクトルの一意性を理解し，図形の性質を証明できる。〔見〕 図形上の頂点に関する位置ベクトルを定めて，図形を考察できる。〔表〕 図形の性質をベクトルで表現して扱うことができる。〔表〕 〔知〕 3点が一直線上にあることをベクトルで表現して利用できる。〔表〕

		・内積の利用による図形の性質の証明	ベクトルの分解の一意性を理解し，計算に利用できる。 〔見〕 線分上の点を，線分を $s:(1-s)$ に内分する点として処理できる。〔表〕
7	ベクトル方程式	・直線と方向ベクトル ・平面上の点の存在範囲 ・直線と法線ベクトル ・円のベクトル方程式	直線上の点を位置ベクトルで考察し，直線のベクトル方程式と関連づけることができる。〔見〕
			直線のベクトル方程式の媒介変数処理ができる。〔表〕
			直線のベクトル方程式を理解している。〔知〕
			直線のベクトル方程式を積極的に活用しようとする。〔関〕
			ベクトルを用いて2直線のなす角を求めることができる。 〔知〕
			ベクトルを用いて円の性質を考察する意欲がある。〔関〕
			円や円の接線のベクトル方程式を理解している。〔知〕
		研究	点と直線の距離
問題 演習問題			
7	数B	第2章 空間ベクトル	
	1. 空間の座標	・空間の点の座標 ・2点間の距離	既知である平面の座標の概念を空間の座標に拡張しようとする。 〔関〕 空間における図形を，座標を利用して示すことができる。 〔表〕 座標空間において，点の座標，2点間の距離が求められる。 〔知〕
	2. 空間のベクトル	・空間のベクトル ・ベクトルの分解	空間のベクトルと平面のベクトルを比較して考察しようとする。 〔関〕 空間のベクトルを平面上のベクトルの拡張としてとらえることができる。 〔見〕 平行六面体におけるベクトルを，和の形に表すことができる。 〔知〕 空間のベクトルを，与えられた3つのベクトルで表すことができる。 〔表〕
	3. ベクトルの成分	・ベクトルの成分 ・成分によるベクトルの演算 ・点の座標とベクトルの成分	空間のベクトルの成分を座標空間と関連づけて考察できる。 〔見〕 成分表示されたベクトルの大きさ，和，差，実数倍の計算ができる。 〔知〕 成分表示されたベクトルを，3つのベクトルの和，差に表現できる。 〔表〕 点の座標とベクトルの成分の関係について理解している。 〔知〕
	4. ベクトルの内積	・ベクトルの内積	ベクトルの内積を，平面から空間へ拡張して考察できる。 〔見〕 立体図形におけるベクトルの内積を，適切な方法で計算できる。 〔表〕 大きさとなす角，成分表示の各場合について，ベクトルの内積を計算できる。 〔知〕 ベクトルのなす角を，内積を利用して求めることができる。 〔知〕 ベクトルの垂直条件を理解し，計算に利用できる。〔知〕
	5. 位置ベクトル	・位置ベクトル	ベクトルの諸性質が平面の場合と同じであることを理解して，それらを利用できる。〔知〕 四面体の重心に興味をもち，その性質を位置ベクトルで考察しようとする。〔関〕 位置ベクトルの一意性を理解し，図形の性質を証明できる。 〔表〕〔知〕
	6. ベクトルと図形	・一直線上の3点 ・同じ平面上にある点 ・内積の利用	3点が一直線上にあることをベクトルで表現して利用できる。〔表〕 空間において3点が一直線上にあるための条件を理解している。〔知〕 空間における図形を，1つの頂点に関する位置ベクトルで考察できる。〔見〕 3点が定める平面上の点の位置ベクトルを一般的に考察し，その結果を利用しようとする。〔関〕 3点で定まる平面上に点Pがあることを，ベクトルで表現して利用できる。〔表〕 ベクトルの分解の一意性を理解し，計算に利用できる。 〔表〕

8			3 点と同じ平面上にあるための必要十分条件を理解し、それを利用することができる。〔知〕 線分の長さ、垂直条件をベクトルの内積で表現して考察できる。〔表〕	
	発展	同じ平面上にある点	内積を利用して、空間の図形の性質を証明できる。〔知〕	
	7．座標空間における図形	・線分の内分点、外分点の座標 ・座標軸に垂直な平面の方程式 ・球面の方程式	空間ベクトルを利用して、分点の座標などを考察できる。〔見〕	
			座標空間における線分の内分点・外分点の座標が求められる。〔知〕	
			座標軸に垂直な平面の方程式を理解している。〔知〕	
				球の方程式に興味をもち、考察しようとする。〔関〕
				球面の方程式から、球の中心、半径を読み取ることができる。〔表〕
				いろいろな球面の方程式が求められる。〔知〕
		研究	平面の方程式 直線の方程式	球面と平面が交わってできる図形を、連立方程式の解の集合としてとらえることができる。〔見〕
	座標平面と球面の交わりの方程式を求めることができる。〔知〕			
	問題 演習問題			
	数Ⅱ 第 4 章 三角関数			
	第 1 節 三角関数			
	1．一般角と弧度法	・一般角 ・動径の表す角 ・弧度法 ・扇形の弧の長さと面積	一般角を動径とともに考察することができる。〔見〕	
			一般角を表す動径を図示したり、動径の表す角を $\alpha + 360^\circ \times n$ と表すことができる。〔知〕	
			新しい角の測り方である弧度法に興味をもち、角度の換算に取り組もうとする。〔関〕	
			弧の長さで角を測る方法として、弧度法を考察することができる。〔見〕	
			角度の表し方に度数法と弧度法があることを理解している。〔表〕	
			弧度法の定義を理解し、度数法と弧度法の換算をすることができる。〔知〕	
			扇形の弧の長さと面積を求める際に、中心角が弧度法であることを理解している。〔表〕	
			扇形の弧の長さと面積の公式を理解している。〔知〕	
	2．三角関数	・一般角の三角関数の定義 ・三角関数の相互関係 ・三角関数の等式の証明 ・三角関数を含む式の値□	三角比の定義を、三角関数の定義に一般化することができる。〔見〕	
			弧度法で表された角の三角関数の値を、三角関数の定義によって求めることができる。〔知〕	
			単位円上の点の座標を、三角関数を用いて表すことができる。〔表〕	
	3．三角関数の性質	・ $\theta + 2n\pi$ 、 $-\theta$ 、 $\theta + \pi$ $\theta + \pi/2$ 、 $\theta - \pi$ 、 $\pi/2 - \theta$ の三角関数	三角関数の相互関係を理解し、それらを利用して様々な値を求めたり、式変形をすることができる。〔知〕	
単位円を利用して、三角関数の性質を調べようとする。〔関〕				
三角関数の性質を、単位円を用いて考察することができる。〔見〕				
4．三角関数のグラフ	・ $y = \sin \theta$ と $y = \cos \theta$ のグラフ ・ $y = \tan \theta$ のグラフ ・ 三角関数のグラフの特徴 ・ 周期関数 ・ いろいろな三角関数のグラフ	$-\theta$ や $\theta \pm \pi$ などの公式を理解し、それらを用いて三角関数の値を求めることができる。〔知〕		
		単位円周上の点の動きから、三角関数のグラフを考えることができる。〔見〕		
		三角関数の性質を、グラフの特徴とともに考察することができる。〔見〕		
		$y = \sin \theta$ と $y = \cos \theta$ のグラフが同じ形の曲線であることに興味、関心をもつ。〔関〕		
		三角関数の性質とグラフの特徴を相互に理解している。〔知〕		
		周期関数に興味をもち、その性質を調べようとする。〔関〕		
		いろいろな三角関数のグラフのかき方と周期の求め方を理解している。〔知〕		
		$y = \sin(k\theta + \alpha)$ の形の関数を適切に変形して、グラフや周期を考察することができる。〔表〕		

9	5. 三角関数の応用	- 三角関数を含む方程式 - 三角関数を含む不等式 - 三角関数を含む関数の最大値、最小値	三角関数を含む方程式・不等式を解く際に単位円やグラフを図示して考察することができる。〔見〕 三角関数を含む方程式・不等式の解き方を理解している。〔知〕 変数をおき換えることで、三角関数を含む関数の最大値・最小値を考察することができる。〔見〕 $-1 \leq \sin \theta \leq 1$ などに注意して、おき換えによって三角関数を含む関数の最大・最小を考察できる。〔表〕 三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる。〔知〕
	問題 演習問題		
	第2節 加法定理		
	6. 加法定理	- 正弦、余弦の加法定理 - 正接の加法定理 2直線のなす角	加法定理を2点間の距離の公式を用いて証明しようとする。〔関〕 加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。〔表〕〔知〕 角を弧度法で表した場合にも、加法定理が適用できる。〔見〕 正接の定義と加法定理を利用して、2直線のなす角を考察することができる。〔見〕 正接の加法定理を利用して、2直線のなす鋭角を求めることができる。〔知〕
	7. 加法定理の応用	2倍角の公式 - 半角の公式 - 三角関数を含む方程式不等式	加法定理から、2倍角の公式、半角の公式を導こうとする。〔関〕 2倍角、半角の公式を利用して、三角関数の値を求めることができる。〔知〕 $3x = 2x + x$ であることに注意して、3倍角の公式を証明することができる。〔見〕 2倍角の公式を利用して、等式を証明することができる。〔知〕 2倍角の公式を利用して、やや複雑な三角関数を含む方程式・不等式の角を統一して考察することができる。〔見〕 2倍角の公式を利用して、三角関数を含むやや複雑な方程式・不等式を解くことができる。〔表〕〔知〕 和と積の公式に関心を示し、その公式を用いて三角関数の値を求めようとする。〔関〕
	8. 三角関数の合成	研究 和と積の公式	$a \sin \theta + b \cos \theta$ の変形にあたり、同じ周期をもつ2つの関数の合成であることを理解している。〔見〕 $a \sin \theta + b \cos \theta$ を $r \sin(\theta + \alpha)$ の形に変形する方法（三角関数の合成）を理解している。〔知〕 合成後の変数のとる値の範囲に注意して、 $a \sin x + b \cos x = k$ の形の方程式や不等式を解くことができる。〔表〕〔知〕 x の関数 $y = a \sin x + b \cos x$ を変形して、関数の最大値・最小値を求めることができる。〔表〕〔知〕 同じ周期をもつ2つの関数 $y = \sin \theta$ と $y = \cos \theta$ を合成すると、そのグラフは位相がずれた正弦曲線になることに興味・
	問題 演習問題		
	数Ⅱ 第5章 指数関数と対数関数		
	1. 指数の拡張	0や負整数の指数の定義 - 累乗根の定義 - 累乗根の性質 - 累乗根の計算 - 有理数指数の累乗の定義 - 指数法則 - 無理数を指数とする累乗	指数法則が成り立つようにするには、0乗、負の整数乗、分数乗をどのように定義すればよいかを調べようとする。 指数法則が成り立つように、指数の範囲を正の整数から実数にまで拡張していることを理解している。〔見〕 $a^m \div a^n$ を $a^m \times a^{-n}$ として処理することができる。〔表〕 指数が整数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。〔知〕 累乗根をグラフによって考察することができる。〔見〕 累乗根の定義を理解し、累乗根の計算ができる。〔知〕 指数が有理数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。〔知〕 負の数の n 乗根に興味を示し、具体的に理解しようとする。〔関〕
	2. 指数関数	研究 負の数の n 乗根	指数関数のグラフの概形を、点をプロットしてかこうとする意欲がある。〔関〕 指数関数のグラフの概形、特徴を理解している。〔知〕

		・指数関数の性質 ・指数方程式、指数不等式	指数関数の増減によって、大小関係や方程式・不等式を考察することができる。〔見〕 底と1の大小に注意して、指数関数を含む方程式・不等式を解くことができる。〔知〕 $a^x > 0$に注意して、おき換えによって指数方程式を解くことができる。〔表〕 x軸方向、y軸方向に平行移動した指数関数のグラフをかくことができる。〔表〕
	3. 対数とその性質	・対数の定義 ・対数の性質 ・対数の計算 ・対数の底の変換	対数$\log_a M$が$a^p = M$を満たす指数pを表していることを理解している。〔見〕 指数と対数とを相互に書き換えることができる。〔表〕 対数の定義を理解し、対数の値を求めることができる。〔知〕 指数法則から、対数の性質を考察することができる。〔見〕 対数の性質に基づいた種々の対数の値の計算や、等式の証明の方法がわかる。〔知〕
	4. 対数関数	・対数関数の定義 ・対数関数のグラフ ・対数関数の性質 ・対数方程式、対数不等式 ・対数関数の最大・最小	対数と指数の関係から、両者のグラフが互いに直線$y = x$に関して対称であるという見方ができる。〔見〕 対数関数のグラフの概形、特徴を理解している。〔知〕 対数関数の増減によって、大小関係や方程式・不等式を考察することができる。〔見〕 底と1の大小に注意して、対数関数を含む方程式・不等式を解くことができる。〔知〕 対数の性質を用いる際に、真数が正であることに着目できる。〔表〕 やや複雑な対数方程式、対数不等式に積極的に取り組もうとする。〔関〕 おき換えによって関数の最大・最小問題を解くことができる。〔表〕 x軸方向、y軸方向に平行移動した対数関数のグラフをかくことができる。〔表〕
	5. 常用対数	・常用対数 ・常用対数の応用 研究 対数と無理数	非常に大きな数や小さな数の取り扱いが楽になる常用対数の有用性を考察することができる。〔見〕 正の数を$a \times 10^n$の形に表現して、対数の値を求めることができる。〔表〕 常用対数の定義を理解し、それに基づいて種々の値を求めることができる。〔知〕 底の変換公式により、どの対数も常用対数で表せることを理解している。〔見〕 桁数や小数首位の問題を一般的に考察しようとする。〔関〕 n桁の数、小数首位が第n位の数を、不等式で表現することができる。〔表〕 常用対数を利用して、桁数の問題や小数首位問題などを解くことができる。〔知〕 現実世界の問題（例えばバクテリアの分裂など）を、常用対数を用いて考察しようとする。〔関〕 対数が無理数であることの証明に関心を持ち、考察しようとする。〔関〕
	問題 演習問題		
11	数Ⅱ 第6章 微分法と積分法		
	第1節 微分係数と導関数		
	1. 微分係数	・平均の速さと瞬間の速さ ・平均変化率と微分係数 ・極限值と微分係数 ・微分係数の図形的な意味 発展 関数の極限值	平均の速さと瞬間の速さに興味をもち、平均変化率や微分係数との関連を考察しようとする。〔関〕 平均変化率における$b - a$は負でもよいことを理解している。〔見〕 極限值を計算して微分係数を求めるとき、分母のhは0でないことを理解している。〔表〕 平均変化率、微分係数の定義を理解し、それらを求めることができる。〔知〕 微分係数の図形的意味を理解している。〔知〕
	2. 導関数	・導関数の定義 ・導関数の性質	導関数を表す種々の記号を理解していて、それらを適切に使うことができる。〔見〕 定義に基づいて導関数を求める方法を理解している。〔知〕

12		変数がx, yでない場合の導関数	導関数の性質を利用して、種々の導関数の計算ができる。〔知〕 導関数を利用して微分係数が求められることを理解している。〔表〕 微分係数の値などから関数を決定することができる。〔知〕 変数がx, y以外の関数について、導関数が求められる。〔知〕
	第2節 導関数の応用		
	3. 接線	- 接線の方程式 - 曲線上にない点から曲線に引いた接線の方程式	微分係数の図形的な意味と、直線の方程式の公式から、接線の方程式の公式を考えることができる。〔見〕 接点のx座標が与えられたとき、接線の方程式を求めることができる。〔表〕 接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。〔知〕 定点Cから曲線に接線を引くとき、接点Aにおける接線が点Cを通ると読み替えることができる。〔見〕 曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式の求め方を理解している。〔知〕
	4. 関数の値の変化	- 関数の増減 - 関数の極大、極小 - 関数の極値とグラフ	関数の増減や極値の問題を、導関数を用いて調べ、解決しようとする。〔関〕 接線の傾きで関数の増減が調べられることを理解している。〔見〕 導関数を利用して、関数の増減を調べることができる。〔知〕 関数の増減や極値を調べるのに、増減表を書いて考察している。〔表〕 導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかくことができる。〔知〕 $f'(a)=0$は、$f(a)$が極値であるための必要条件ではあるが、十分条件ではないことを理解している。〔知〕 関数の極値から関数を決定する際に、必要十分条件に注意している。〔表〕 関数の極値が与えられたとき、関数を決定することができる。〔知〕
	5. 最大値 最小値	- 関数の最大値、最小値 - 最大、最小の応用問題	最大値・最小値と極大値・極小値との違いを、明確に意識して考察できる。〔見〕 導関数を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。〔知〕 身近にある最大値・最小値の問題を、微分法を利用して解決しようとする。〔関〕 最大・最小の応用問題では、変数のとり方、定義域に注意している。〔表〕 導関数を利用して、最大値・最小値の応用問題を解くことができる。〔知〕
	6. 関数の グラフと 方程式 不等式	3次方程式の実数解の個数 - 不等式の証明	方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。〔関〕 方程式の実数解の個数を、関数のグラフとx軸の共有点の個数に読み替えて考察できる。〔見〕〔表〕 不等式を、関数のグラフとx軸との上下関係に読み替えて、考察できる。〔見〕 不等式$f(x) \geq 0$を、関数$y=f(x)$の値域が0以上と読み替えることができる。〔表〕 導関数を利用して、方程式の実数解の個数問題、不等式の証明問題を解くことができる。〔知〕
	第3節 積分法		
	7. 不定積分	- 導関数と不定積分 - 不定積分の性質	積分法が微分法の逆演算であることから、不定積分を求めようとする。〔関〕 微分法の逆演算としての不定積分を考えることができる。〔見〕 不定積分の計算では、積分定数を書き漏らさずに示すことができる。〔表〕 不定積分の定義や性質を理解し、それを利用する不定積分の計算方法を理解している。〔知〕 与えられた条件を満たす関数や曲線の方程式を不定積分を利用して求めることができる。〔知〕
	8. 定積分	- 面積と不定積分 - 定積分	面積$S(x)$が関数$f(x)$の1つの不定積分であることに興味・関心をもち、考察しようとする。〔関〕 定積分が、図形の計量に関して有用であることを認識している。〔見〕

1		- 定積分の性質 - 定積分で表された関数 - 定積分と微分法	定積分の計算では、分数計算を容易にするための工夫がみられる。〔表〕 定積分の定義や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解している。〔知〕 定積分は定数であることを理解し、それを利用して、定積分を含む関数を求めることができる。 上端がxである定積分をxの関数とみることができる。〔見〕 上端が変数xである定積分で表された関数を微分して処理することができる。〔知〕
	9. 面積	- 曲線と x 軸の間の面積 - 絶対値のついた関数の定積分	直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分を用いて求めようとする。〔関〕 面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを図をかいて考察している。〔表〕 直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。〔知〕 絶対値のついた関数の定積分の計算方法を理解している。〔知〕
	問題 演習問題		
	数B 第3章 数列		
	第1節 数列とその和		
	1. 数列	数列	数の並び方に興味をもち、その規則性を発見しようとする意欲がある。〔関〕 数列に関する用語、記号を適切に用いることができる。〔表〕 数の並び方からその規則性を推定して、数列の一般項を考察できる。〔見〕 数列の定義、表記について理解している。〔知〕
	2. 等差数列とその和	- 等差数列 - 等差数列の性質 - 等差数列の和 - いろいろな自然数の数列の和	等差数列の項を書き並べて、隣接する項の関係が考察できる。〔見〕 条件から等差数列の一般項を決定できる。〔表〕 等差数列の公差、一般項などを理解している。〔知〕 等差中項の性質に興味をもち、問題解決に利用しようとする。〔関〕 等差数列の項を書き並べて、隣接する項の和が考察できる。〔見〕 等差数列の和の公式を適切に利用して、等差数列の和が求められる。〔表〕 自然数の和、奇数の和、倍数の和などが求められる。〔知〕
	2 3. 等比数列とその和	- 等比数列 - 等比数列の和	等比数列の項を書き並べて、隣接する項の関係が考察できる。〔見〕 条件から等比数列の一般項を決定できる。〔表〕 等比数列の公比、一般項などを理解している。〔知〕 等比中項の性質に興味をもち、問題解決に利用しようとする。〔関〕 等比数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。〔表〕 等比数列の和に関する条件が与えられたとき、初項や公比が求められる。〔知〕 複利計算に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。〔関〕
	4. 和の記号 Σ	- 累乗の和 - 和の記号 Σ Σ の性質	自然数の2乗の和や3乗の和の公式を求めようとする意欲がある。〔関〕 和の記号 Σ の意味を理解し、数列の和が求められる。〔表〕, 〔知〕 数列の和を記号 Σ で表して、和の計算を簡単に行うことができる。〔見〕
	5. 階差数列	階差数列	第k項をkの式で表して、初項から第n項までの和が求められる。〔表〕
	6. 色々な数列の和	- 数列の和と一般項 - 色々な数列の和	和の求め方の工夫をして、数列の和が求められる。〔表〕, 〔知〕 $f(k+1)-f(k)$ を用いる和の求め方に興味をもち、具体的な問題に活用しようとする。〔関〕

3			群数列を理解し，ある特定の群に属する数の和が求められる。〔見〕 数列の規則性の発見に，階差数列が利用できる。〔見〕 階差数列を利用して，もとの数列の一般項が求められる。〔知〕 初項から第n項までの和に着目して，一般項を考察できる。〔見〕 数列の和S_nと第n項a_nの関係を理解し，数列の一般項が求められる。〔知〕
	問題 演習問題		
	第 2 節 数学的帰納法		
	7. 漸化式と数列	・ 漸化式 ・ 漸化式で定められる数列の一般項 ・ 漸化式の応用	初項と漸化式を用いて数列を定義できることを理解している。〔見〕 漸化式の意味を理解し，具体的に項が求められる。〔知〕 漸化式を適切に変形して，その数列の特徴を考察することができる。〔表〕 $an+1=pan+q$を満たす数列の階差数列について，具体的に考察しようとする。〔関〕 おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について，考察しようとする。〔関〕 おき換えを利用して，漸化式から一般項を求めることができる。〔表〕
		研究 確率と漸化式	初項と漸化式から数列の一般項が求められる。〔知〕
		発展 隣接 3 項間の漸化式	与えられた条件から a_n と a_{n+1} の間に成り立つ漸化式を求めることができる。〔知〕
	8. 数学的帰納法	・ 数学的帰納法による等の証明 ・ 数学的帰納法による整数の性質の証明 ・ 数学的帰納法による不等式の証明 ・ 漸化式と数学的帰納法	数学的帰納法を利用して，いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。〔関〕 自然数nに関する命題の証明には，数学的帰納法が有効なことを理解している。〔見〕 数学的帰納法を用いて，等式を証明できる。〔知〕 ある数の倍数であることを，文字を用いて表現できる。〔表〕 数学的帰納法を用いて，整数の性質を証明できる。〔知〕 $n \geq k$の場合に成り立つ不等式を，数学的帰納法を用いて証明できる。〔表〕〔知〕 一般項を推測して，それが正しいことを数学的帰納法で証明することができる。〔見〕
	問題 演習問題		

地理歴史・公民科

教科名	公民科	科目名	基礎社会
科目の目標	協同学習を通じ、社会の変化に伴う様々な現代の諸課題に対する関心をもち、その解決方法を積極的に主体的に追求しようとする姿勢を養うとともに、他者の意見等を通じて多面的・多角的に考え、公正に判断し、その内容を的確にまとめ・表現する力を育成する。		
履修学年	2年	類型	文系
単位数	1単位	履修形態	必修

【 評価の観点 】

- (1) 現代の諸課題に対する課題解決方法追求に対する関心・意欲・態度
現代社会の諸課題に関心を持ち、その解決方法について積極的に主体的に追求しようとする。
- (2) 現代の諸課題に対する多面的・多角的な思考力・判断力・表現力
個人の学習、協同学習によって他者の意見をふまえて、思考し、判断し、論述したり、討論することができる。
- (3) 現代の諸課題に対する情報の活用技能・表現
諸資料を有効に活用して、思考し判断するための材料として用いることができる。
- (4) 現代の諸課題についての知識・理解
現代の諸課題について考察し表現するために必要な基礎的な知識や歴史的・文化的背景について理解している。

【 1つのテーマにおける活動サイクル 】

- (1) 教師の活動…講義:教師の指導による、課題に関する基礎的な知識や考え方に関する解説による課題認識。
- (2) 個人の活動…資料等を用いて課題に対する自己の見解を持ち、課題解決のための方法を思考する。
- (3) 協同学習1…同じ方向性から思考した個人活動によって得た解決方法の共有。
- (4) 協同学習2…他の方向性から思考した解決方法を持ち寄り、多面的・多角的解決方法の共有。
- (5) 協同学習3…協同学習2で得られた内容をまとめて発表し、相互発表を行い、多面的・多角的解決方法の共有と評価。
- (6) レポートの作成…学習内容を整理し、自分の言葉で表現する。

【 年間計画 】

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など
4 5 6 7 8 9		教科オリエンテーション(協同学習の意味と効果) 1 人間と社会における政治の意義と役割 政治を行うことの重要性・必要性とは 2 人間と社会における法の意義と役割 憲法・法が社会の中で果たす役割とは 3 人間と社会の関わり方 人間の存在を考える 前期期末考查	・現代社会における特質や社会的課題を認識し、現状について理解している。 【知識・理解】 ・現代社会における社会的課題の解決方法について、学習した知識を基にして考察することができる。 【思考・判断】 ・現代社会における社会的課題の認識のために、効果的に資料を活用し、客観的データを基に課題の提示を行うことができる。 【資料活用の技能・表現】 ・現代社会における社会的課題を学習した内容から、どのように解決すべきか、自己の在り方生き方と連動させながら、関心を深めることができる。【関心・意欲・態度】
9 10 11 12 1 2		4 人間と社会における経済の意義と役割 経済活動の意味を考える 5 人間と社会における経営の意義と役割 企業活動の意味を考える 6 国際社会の諸課題に照らし合わせて 環境問題をどのように考えるべきか？ 後期期末考查	・国際社会における課題や先哲の生き方あり方を認識し、現状について理解している。 【知識・理解】 ・国際社会における課題の解決方法について、学習した知識や先哲の生き方あり方を基にして考察することができる。 【思考・判断】 ・国際社会における社会的課題の認識のために、効果的に資料を活用し、客観的データを基に課題の提示を行うことができる。 【資料活用の技能・表現】 ・国際社会における社会的課題を学習した内容から、どのように解決すべきか、自己の在り方生き方と連動させながら、関心を深めることができる。【関心・意欲・態度】
3		3年生での学習へ向けて	

地理歴史・公民科

教科名	地理・歴史科	科目名	世界史B
科目の目標	(1) 歴史に対する興味・関心を深め、基本的な歴史用語を理解する。 (2) 歴史の学習を通して現代社会についての理解を深め、歴史の方法論を学ぶ。		
履修学年	2年	類型	文系・理系共通
単位数	4単位	履修形態	選択
教科書	世界史B(東京書籍)	副教材等	グローバルワイド最新世界史図表(第一学習社)

①学習の目標

- (1) 人間の尊重と科学的な探求の精神にもとづき、広い視野を持って歴史とそこに存在している人間についての理解を深める。
- (2) 混迷を深める国際社会を生きぬくための世界観を提示し、自主的・意欲的な学習に結びつける。

②学習内容と授業の進め方

オリエンテーション

歴史の中でいくつかの題材を選び、歴史への興味付けを行う。

序章 先史の世界

第1章 オリентと地中海世界

第2章 アジア・アメリカの古代文明

第3章 東アジア世界の形成と発展

第4章 内陸アジア世界の変遷

第7章 諸地域世界の交流

第5章 イスラーム世界の形成と発展

第6章 ヨーロッパ世界の形成と発展

第8章 アジア諸地域の繁栄

第9章 近代ヨーロッパの成立

第10章 ヨーロッパ主権国家体制の展開

各項目を解説する中で、正しい歴史観を持たせる。知識を身に付け、歴史の見方を養う。

③学習に当たっての留意点

- (1) 歴史は、興味深いものであると同時に正しい歴史観が社会を見る目を養い、現代社会の諸問題の解決に重要な意味を持つことは言うまでもない。こうした正しい歴史理解に加えて、本校においての世界史は、多くの生徒にとってセンター試験の必須受験科目であるという現実は無視することができない。
- (2) 本校の教育課程では、2年生か3年生で必ず世界史を選択させ、世界史を選択しない学年では日本史または地理を選択させることになっているが、各科目の授業内容の構成上、受験での使用科目は2年生で選択した科目となる。
- (3) 本校では、センター試験、さらに一部の大学の個別試験に対応するために、教科書の内容を再編集しながら授業を行う。実際に、2年生の4単位では受験に対応するためには内容的に不十分なため、2年生では近世までの世界史を中心に学習する。

④評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
【関】 歴史に対しての興味・関心を持ち、歴史学さらに社会科学の方法論を身につけることができたか。
- (2) 思考・判断
【思】 歴史を学ぶことを通して、現代社会の諸事象の歴史的原因等を知り、考えることができるか。
- (3) 資料活用
技能・表現
【資】 教科書・資料集などを活用して、興味をもった事柄について、調べることができるか。
- (4) 知識・理解
【知】 授業の内容を理解し、世界史の基礎的な知識を身につけることができたか。

⑤評価の方法

下位目標：教科書に加えて授業の内容を理解し、センター試験レベルの知識を身に付ける。

中位目標：歴史に対しての興味・関心を持ち、関連する現代社会の諸事象への理解を深める。

上位目標：歴史を学ぶことを通して、歴史学さらに社会科学の方法論を身に付ける。

以上の目標について、どの段階まで達成できたかを、定期考査中心に、授業中の観察を加味して総合的に評価していく。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4 5	オリエンテーション 序章 先史の世界 第1章 オリエントと地中海世界	歴史と現代の関わり、歴史への興味付け 考古学と歴史学 人類の発生と進化 古代オリエント世界 ギリシア世界 ローマ世界	・歴史の学習の導入として学習方法がわかったか。【知・資】 ・基本的な歴史用語が理解できたか。【知】 ・導入で歴史に対しての興味をもてたか。【関】
6 7 8	第2章 アジア・アフリカの古代文明 第3章 東アジア世界の形成と発展	インドの古文明 東南アジアの諸文明 中国の古典文明 北方民族の活動と中国の分裂 東アジア文化圏の形成 東アジア諸地域の自立化	・各地域の古代文明の違いの理解。 ・中国史の展開が理解できたか。【知】 ・風土の違いに気づき興味をもてたか。【関・思】 前期中間考査
9	第4章 内陸アジア世界の変遷 第7章 諸地域世界の交流	遊牧民とオアシス民の活動 トルコ化とイスラーム化の進展 モンゴル民族の発展 陸と海のネットワーク 海の道の発展	・中国史における周辺民族のについての知識。【知】 ・地理的な位置が理解できたか。【知】 ・地域の結びつきの概念について興味をもてたか。【関・思】 後期中間考査
10	第5章 イスラーム世界の形成と発展	イスラーム帝国の成立 イスラーム世界の発展 インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化 イスラーム文明の発展	・イスラーム歴史の流れ、基本的な歴史用語についての知識。【知】 ・諸文明、宗教の違いを正しく理解できたか。【知】 ・イスラーム世界について関心が持てたか。【関・思】

11	第6章 ヨーロッパ世界の 形成と発展	西ヨーロッパ世界の成立 東ヨーロッパ世界の成立 西ヨーロッパ中世世界の変容 西ヨーロッパの中世文化	・ヨーロッパの歴史の流れ、基本的な歴史用語についての知識【知】 ・ヨーロッパの文明、宗教や文化の特質を正しく理解できたか【知】 ・ローマ帝国滅亡後のヨーロッパの歴史に関心が持てたか【関・思】 後期中間考査
12 1	第8章 アジア諸地域の 繁栄	東アジア・東南アジア世界の動向 清代の中国と隣接諸地域 トルコ・イラン世界の展開 ムガル帝国の興隆と衰退	・アジアの大帝国の成立の状況についての知識【知】 ・この時期の基本的な歴史用語が理解できたか【知】 ・アジアに対してのその後のヨーロッパの関わりに対しての興味がもてたか【関・思】
2	第9章 近代ヨーロッパ の成立	ヨーロッパ世界の拡大 南北アメリカ文明 ルネサンス 宗教改革 主権国家体制の形成	・ヨーロッパの発展の経緯についての基本的な知識。【知】 ・この時期の基本的な歴史用語が理解できたか。【知】 ・ヨーロッパの世界各地に対する関わりを考えることができたか。【関・思】 後期期末考査
3	第10章 ヨーロッパ主権 国家体制の展開	重商主義と啓蒙専制主義 ヨーロッパ諸国の海外進出 17～18世紀のヨーロッパ文化	・経済活動を中心にしてのヨーロッパの発展についての知識。【知】 ・この時期の基本的な歴史用語が理解できたか。【知】 ・ヨーロッパ諸国の状況を世界各地とのつながりの上で考えることができたか。【関・思】

地理・歴史科

教科名	地理・歴史科	科目名	地理B
科目の目標	(1) 地理に対する興味・関心を深め、基本的な地理用語を理解する。 (2) 地理の学習を通して現代社会についての理解を深め、主体的に関わる態度を身につける。		
履修学年	2年	類型	文系・理系共通
単位数	4単位	履修形態	選択
教科書	新詳地理B(帝国書院)	副教材等	データブックオブ・ザ・ワールド(二宮書店)
			新詳高等地図(帝国書院)

①学習の目標

- (1) 広い視野を持って地理的事象を系統的・地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養う。
- (2) 地理的な見方・考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

②学習内容と授業の進め方

第Ⅰ部 さまざまな地図と地理的技能

各種の地図から地理情報を読み取る力を養う。

第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察

自然環境、資源と産業、村落・都市と生活文化に関連して人間との関係について考える。

第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察

国家規模の地誌の分析を通して、ミクロ・マクロ別に区分し、地理的視点で客観的に考える。

③学習に当たっての留意点

- (1) 受験に対応するため、基本的な地理用語を理解させると同時に、政治経済や世界史・日本史などの内容にも関連させ、横断的な見方・考え方を身につけさせることを心掛ける。
- (2) センター試験及び各大学の入学試験にも対応するために、内容を精選して授業を実施する。2年生の4単位では受験に十分対応できるよう全領域にわたって学習し、3年生では演習を中心に実施する。

④評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
【関】 地理の楽しさを味わうことができるよう、自ら進んで計画的・意欲的に学習しようとする。
- (2) 思考・判断
【思】 世界の自然環境などを位置や空間的な広がりに着目して地理的事象を見いだし、考察することができる。
- (3) 知識・理解
【知】 現代世界の特質を地球規模で理解し、その知識を身につけている。
- (4) 資料活用の技能・表現
【資】 学習に必要な資料を収集して、役立つ情報を適切にまとめることができる。

⑤評価の方法

定期テスト・小テスト等を実施、日常の授業への関心・意欲・態度とあわせて総合的に判断する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	地理情報と地図	現代世界の地図 地図の種類とその利用	・地図から地理情報を読み取ることができるか【資】
	自然環境	世界の地形 世界の気候	・世界の自然環境・生活文化に対して、課題意識を持ち、意欲的に取り組んでいるか。【関】
5	資源と産業	日本の自然の特徴と人々の生活 環境問題	・世界の自然環境などを世界的視野から地域的な相違点・分布に着目し、追求しているか。【思】 ・世界の自然環境などに関して、多様性や地域性をとらえる視点や方法を理解し、その知識を身につけているか。【知】
6		世界の農林水産業 食料問題	
		世界のエネルギー・鉱産資源 資源・エネルギー問題	
7		世界の工業 第3次産業	
8	人口、村落・都市	世界を結ぶ交通・通信 現代世界の貿易と経済圏	・資料を活用して、考察の過程や結果をまとめたり、発表したりすることができるか。【資】
		世界の人口 人口問題	・世界の課題に対して、問題意識を持ち、意欲的に取り組んでいるか。【関】
9		村落と都市 都市・居住問題	・課題を世界的視野から地域的な相違点・分布に着目し、追求しているか。【思】
	生活文化、民族・宗教	生活文化 民族と宗教	・世界の課題に関して、多様性をとらえる視点や方法を理解し、その知識を身につけているか。【知】 ・変容する現代世界の諸地域に対して、関心と課題意識を持ち、意欲的に取り組んでいるか。【関】
10	現代世界の諸地域	現代世界の国家 民族・領土問題	
		東アジア 東南アジア 南アジア	
11		西アジアと中央アジア 北アフリカとサハラ以南のアフリカ	
		ヨーロッパ ロシア	・諸地域の環境条件、他地域との結びつき、地域に生きる人々の営みなどを多面的・多角的に考察しているか。【思】
12		アングロアメリカ ラテンアメリカ	・事例として取り上げた地域・国・州・大陸の地域の特色を理解しているか。【知】
1		オセアニア	・資料を活用して、考察の過程や結果をまとめたり、発表したりすることができるか。【資】
2			
3			

地理歴史・公民科

教科名	地理歴史科	科目名	日本史B
科目の目標	(1) 歴史に対しての興味・関心を深め、基本的な歴史用語を理解する。 (2) 歴史の学習を通して現代社会についての理解を深め、歴史の方法論を学ぶ。		
履修学年	2年	類型	文系・理系共通
単位数	4単位	履修形態	選択
教科書	詳説日本史B(山川出版社)	副教材等	図説日本史通覧(帝国書院)

①学習の目標

- (1) 人間の尊重と科学的な探求の精神にもとづき、広い視野を持って歴史とそこに存在している人間についての理解を深める。
- (2) 自国の歴史を正しく理解し、自主的・意欲的な学習に結びつける。

②学習内容と授業の進め方

- (1) 教科書の内容を中心に、各自のノートに要点整理をしながら、日本の歴史の基本事項を学ぶ。
- (2) 授業中に副教材(図説・史料集)を多く使用する。また自分で資料を活用し考察する課題にも取り組む。
- (3) 各単元ごとにプリントを配布する。授業で行った内容の確認を行う。

③学習に当たっての留意点

- (1) 歴史は、興味深いものであると同時に正しい歴史観が社会を見る目を養い、現代社会の諸問題の解決に重要な意味を持つことは言うまでもない。こうした正しい歴史理解に加えて、本校においての日本史は、多くの生徒にとってセンター試験の必須受験科目であるという現実は無視することができない。
- (2) 本校の教育課程では、2年生か3年生で必ず世界史Bを選択させ、世界史Bを選択しない学年では日本史Bまたは地理Bを選択させることになっているが、各科目の授業内容の構成上、受験での使用科目は2年生で選択した科目となる。
- (3) 本校では、センター試験、さらに一部の大学の個別試験に対応するために、教科書の内容を再編集しながら授業を行う。実際に、2年生の4単位では受験に対応するためには内容的に不十分なため、2年生では近世までの日本史を中心に学習する。
- (4) 2年生で日本史を選択した生徒は、3年生の世界史の授業時間の中で、日本史の近現代史を各科目の学習と並行して学ぶ。こうして、日本史の受験に対応していく能力を身に付けると同時に、2、3年生を通して社会科学の方法論を学んでいく。

④評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
【関】日本の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求し、国家・社会の一員としての責任を果たそうとしているか。【関】
- (2) 思考・判断
【思】日本の歴史から課題を見だし、世界史的視野に立って多角的に我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めるとともに、国際社会の変化をふまえ公正に判断しているか。【思】
- (3) 資料活用の技能・表現
【資】日本の歴史についての諸資料を収集・活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身に付け、考察した過程や結果を適切に表現できるか。【資】
- (4) 知識・理解
【知】日本の歴史についての基本的・発展的な事柄を世界史的視野に立って理解し、その知識を身につけているか。【知】

⑤評価の方法

定期考査の成績とともに、学習活動への参加態度とあわせて総合的に評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	第1章 日本文化のあけぼの	1 文化のはじまり 2 農耕社会の成立 3 古墳とヤマト政権	・古代の人々の生活の変化、国家の成立と推移及び文化の形成に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求しているか。整理ノートの確認と授業態度から評価する。【関】
5	第2章 律令国家の形成	1 飛鳥の朝廷 2 律令国家の成立 3 平城京の時代	・諸資料を活用し、追求し考察した過程や結果を適切に表現できるか。レポート提出あるいは発表する。【資】 ・課題を見だし、東アジア世界の動きとも関連付けて多角的に考察できるか。また、日本列島形成から律令国家の成立・展開、藤原氏全盛時代までの展開を理解し、知識を身につけているか。定期考査の素点で評価する。【思】【知】
6		4 天平文化 5 平安朝廷の形成	前期中間考査
7	第3章 貴族政治と国風文化	1 摂関政治 2 国風文化	
8		3 荘園と武士	
9	第4章 中世社会の成立	1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立	前期期末考査
10		3 武士の社会 4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化	・武家政権の成立から戦国大名の時代にいたる武家社会の進展と文化の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求しているか。整理ノートの確認と授業態度から評価する。【関】 ・諸資料を活用し、追求し考察した過程や結果を適切に表現できるか。レポート提出あるいは発表する。【資】 ・課題を見だし、東アジア世界の動きとも関連付けて多角的に考察できるか。また、院政から武家政権の誕生・展開・衰退までを民衆の成長と連動させて理解し、知識を身につけているか。定期考査の素点から評価する。【思】【知】
11	第5章 武家社会の成長	1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化	後期中間考査
12		4 戦国大名の登場	
1	第6章 幕藩体制の確立	1 織豊政権 2 桃山文化	・織豊政権、幕藩体制の特色と推移、社会・文化の動向に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求しているか。整理ノートの確認と授業態度から評価する。【関】 ・諸資料を活用し、追求し考察した過程や結果を適切に表現できるか。レポート提出あるいは発表する。【資】 ・課題を見だし、国際関係の変化とその影響を関連付けて多角的に考察できるか。また、信長・秀吉・家康を中心とした天下統一事業の背景・経過・結果を理解するとともに、江戸幕府の推移と、政治・社会・民衆の生活の変化を理解し、知識を身につけているか。定期考査の素点から評価する。【思】【知】
2	第7章 幕藩体制の展開	1 幕政の安定 2 経済の発展 3 元禄文化	
3	第8章 幕藩体制の動揺	1 幕政の改革 2 幕府の衰退 3 化政文化	後期期末考査

理科

教科名	理科	科目名	地学基礎
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。		
履修学年	2年	類型	文系
単位数	2単位	履修形態	必修
教科書	地学基礎改訂版(啓林館)	副教材等	セミナー地学基礎(第一学習社会)、地学図録(数研出版)

①学習の目標

(1)活動する地球に関する探究活動を行い、その学習内容の理解を深めるとともに、地学的に探究する能力を高める。プレートの分布と運動及びプレート運動に伴う大地形の形成について理解する。
火山活動と地震の発生のしくみについて理解する。

(2)地層が形成される仕組みと地質構造について理解する。
古生物の変遷と地球環境の変化について理解する。

(3)大気の大循環と海水の運動及びそれらによる地球規模の熱の輸送について理解し、日本で見られる季節の気象について学ぶ。

(4)宇宙の誕生と地球の形成について観察、実験などを通して探究し、宇宙と惑星としての地球の特徴を理解する。

(5)地球環境の変化を科学的に考察する。
日本の自然環境を理解し、その恩恵や災害など自然環境と人間生活とのかかわりについて考察する。

②学習内容と授業の進め方

上記の目標を達成するため、学習事項の解説により基本的な知識や考え方を理解し、それに関する実験・観察・実習をとおして思考力・判断力・表現力を身に付けていく。

③学習に当たっての留意点

(1)ノート・実験プリント等の整理・整頓に努め、復習に利用できるように整備しておくこと。

④評価の観点

- | | |
|------------------------|--|
| (1) 関心・意欲・態度
【関】 | 自然科学の基本概念や原理、法則について関心を高めているか。
意欲的に授業に参加し、自ら課題を追求する意欲や、地球・宇宙に関する関心を持っているか。
(学習活動への参加態度、探究活動への積極性、課題・ノートなど) |
| (2) 思考・判断
【思】 | 身の周りの現象を探究し、思考することができるか。
自然現象に見られる普遍の原理を理解し、身近な事例に応用して思考することができるか。
(定期考査の論述問題、レポートの考察など) |
| (3) 観察・実験の技能・表現
【技】 | 様々な実験や実習に習熟し、結果から得られる事実を正しく理解することができるか。
実験や実習によって得られた結果を文章、グラフ、表などにより表現し、結果の意味するところを性格に伝達する技術があるか。また、参考資料などを活用することができるか。
(定期考査の論述問題、レポート全体の内容など) |
| (4) 知識・理解
【知】 | 基本的な地球や宇宙についての正しい知識を持とうとしているか。
地球や宇宙の変化について地学的に考察することができるか。
(定期考査、課題・ノートなど) |

⑤評価の方法

定期考查の結果、授業への取り組む姿勢・態度、実験レポートの内容等により、総合的に評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	第1部 固体地球とその 変動	1 地球 2 活動する地球	【関心・意欲・態度】 固体地球に見られる諸現象や地球と生命の共進化に関心を持ち、意欲的に学習や実験を行うことができたか。 【思考・判断】 固体地球に見られる諸現象をプレートテクトニクスという統一的な視点で分析的・総合的に考察することができたか。また、太陽系の惑星との比較から地球の特徴を明らかにすることができたか。さらに、地球と生命の共進化という視点で過去の地球に起きた諸現象を分析的・総合的に考察できたか。 【実験・実習の技能・表現】 固体地球に見られる諸現象や地球と生命の共進化に関わるVTRや実験・観察の結果をわかりやすくまとめることができたか。また、固体地球や地球と生命の共進化を理解するための実験や調査等の技能を身に付けることができたか。
5	第2部 移り変わる地球	1 地球史の読み方 2 地球と生命の進化	実験1 地球の大きさの計算 実験2 楕円の偏平率・離心率 実験3 プレート運動・断層の観察 実験4 火成岩・変成岩の観察 実験5 震源・震央決定の原理 レポート【関】【思】【技】 演習問題①【思】【技】【知】 前期中間ノート提出【関】【知】 前期中間考查【思】【技】【知】 実験6 堆積岩の観察 レポート【関】【思】【技】
6			
7			
8	第4部 宇宙の構成	1 太陽系と太陽	【知識・理解】 固体地球に見られる諸現象をプレートテクトニクスという統一的な視点で理解し、その内容を身に付けたか。また、太陽系の他の惑星との違いを明らかにし、その特徴を理解することができたか。地球の歴史を地球と生命の共進化という統一的な視点で理解し、その内容を身に付けたか。 演習問題②【思】【技】【知】 前期期末ノート提出【関】【知】 前期期末考查【思】【技】【知】 実験7 スペクトル観察 実験8 天体望遠鏡の使い方 実験9 太陽黒点観察 実験10 月・惑星の観察 レポート【関】【思】【技】
9		2 恒星としての太陽の変化	
10		3 銀河系と宇宙	
11			【関心・意欲・態度】 天文・宇宙に関わる諸現象に関心を持ち、意欲的に学習や実験を行うことができたか。 【思考・判断】 天文・宇宙に関わる諸現象を、それらを支配する諸法則を用いて、分析的・総合的に考察することができたか。 【実験・実習の技能・表現】 天文・宇宙に見られる諸現象に関わる映像や実験・観察の結果をわかりやすくまとめることができたか。また、天文・宇宙を理解するための実験や調査等の技能を身に付けることができたか。 【知識・理解】 天文・宇宙に関わる諸現象に見られる法則を理解し、その内容を身に付けたか。
			演習問題③【思】【技】【知】 後期中間ノート提出【関】【知】 後期中間考查【思】【技】【知】

12	第3部 大気と海洋	1 大気の構造 2 太陽放射と大気・海水 3 日本の天気	【関心・意欲・態度】 大気・海洋や地球環境に関わる諸現象に関心を持ち、意欲的に学習や実験を行うことができたか。 【思考・判断】 大気・海洋や地球環境に関わる諸現象を、関連する物理法則を用いて、分析的・総合的に考察することができたか。 【実験・実習の技能・表現】 大気・海洋や地球環境に見られる諸現象に関わる実験・観察の結果ををわかりやすくまとめることができたか。また、大気・海洋を理解するための実験や調査等の技能を身に付けることができたか。 【知識・理解】 大気・海洋や地球環境に関わる諸現象を、物理法則の視点で理解し、その内容を身に付けたか。	実験11 大気圧測定・雲の発生 実験12 天気予報 実験13 北海道の気象 実験14 災害モデル実験 レポート【関】【思】【技】 演習問題④【思】【技】【知】 後期期末ノート提出【関】【知】 後期期末考査【思】【技】【知】
2 3	第5部 自然との共生	1 自然環境と人類 2 火山・地震災害と社会 3 気象災害と社会 4 人間生活と地球環境の変化		

理科

教 科 名	理科	科 目 名	物理
科目の目標	物理的な事物・現象について観察・実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。		
履修学年	2年	類 型	理型
単 位 数	3単位	履 修 形 態	選択
教 科 書	物理（啓林館）	副 教 材 等	セミナー物理（第一学習社）

①学習の目標

「エネルギー」

定量的に理解させ、力学的エネルギー保存則・エネルギー保存則により各現象を理解する能力を育て、定量的取り扱いも習熟させる。

「力と運動」

力と運動をベクトル量としての物理量で表すことを理解させ、物体の様々な運動を理解する。また、剛体の取り扱いも習熟させる。

「波」

波の基本的な性質を理解させる。音・光の波としての現象を理解させる。

②学習内容と授業の進め方

前期中間考査前後までは物理基礎の未習分野を学習し、基礎を盤石にすることを旨とする。授業を中心に解説・実験を行う。各分野ごとに演習を通して学習した内容を確認する。

③学習に当たっての留意点

「物理」では、基本的な内容に加え、発展的な内容も取り扱う。授業時間だけでは演習時間が十分に確保できないので、受験に対応する力をつけるため、各自が自主的・意欲的に家庭学習に取り組むことが求められる。

④評価の観点

(1) 関心・意欲・態度

- ・問題演習に積極的に取り組んだか。
- ・物理現象を「なぜそうなるのか」という疑問や好奇心をもてたか。【関】

(2) 思考·判断

- ・自然現象を物理的な見方ができ、数式を使って分析できたか。【思】

(3) 観察・実験の技能・表現

- ・観察、実験の技能を習得できたか。
- ・自然現象を物理的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果を的確に表現できたか。【技】

(4) 知識・理解

- ・自然現象を数式化する際に必要な知識を持っているか。
- ・日常生活の中の物理の関わりについて理解できたか。【知】

⑤評価の方法

(1) 関心・意欲・態度……………授業態度、演習プリント、実験態度、実験プリント、ノート提出

(2) 思考・判断……………定期テスト、演習プリント、実験プリント

(3) 観察・実験の技能・表現……定期テスト、演習プリント、実験プリント

(4) 知識・理解・・・・・・・・定期テスト、演習プリント

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目の記入)
4	物理基礎 第2編	さまざまな物理現象とエネルギー	・波の基本的性質について数値計算でき、 グラフ化することができる。【関】【思】【技】【知】 ・弦や気柱の共鳴の定量的理解【関】【思】【技】【知】
	2章 波	1 波の性質 2 音と振動	
5	物理基礎 第1編	物体の運動とエネルギーの世界	・物理基礎の力学分野の発展的内容について、定量的に取り扱うことができる【思】【技】【知】
	2章 さまざまな力とそのはたらき	運動の法則(摩擦力のある運動方程式の2体問題)	
	3章 力学的エネルギー	非保存力がある場合のエネルギーと仕事の関係	・モーメントにより回転しない条件、静止する条件を求める。【関】【思】【技】【知】
	物理 第1部 様々な運動		
	第1章 物体の運動とつり合い	第3節 剛体のつり合い 第2節 放物運動	
6			・前期中間考査
		第1節 平面内の運動	2次元の運動の数式化【関】【思】【技】【知】
	第2章 運動量と力積	第1節 運動量の保存	・衝突や分裂時の運動量保存則の立式【関】【思】【技】【知】
7		第2節 反発係数	・円運動の計算、慣性力の理解【関】【思】【技】【知】
	第3章 円運動と単振動	第1節 円運動 第2節 慣性力と遠心力	
		第3節 単振動	
8			・基本的な単振動の計算【関】【思】【技】【知】
9			・前期期末考査
		第3節 単振動	・万有引力の計算【関】【思】【技】【知】
	第4章 万有引力	第1節 万有引力	
10	物理 第2部 波動		・反射、屈折、干渉など波動特有の現象の数式化【関】【思】【技】【知】
	第1章 波の性質	第1節 波の伝わり方 第2節 波の干渉と回折	
11		第3節 波の反射と屈折	・後期中間考査
	第2章 音の性質	第1節 音波 第2節 ドップラー効果	・音の3要素、ドップラー効果の定性的、定量的理解【関】【思】【技】【知】
12			・光速測定の定性的、定量的理解【関】【思】【技】【知】
	第3章 光の性質	第1節 光の進み方	
1		第2節 光の性質 第3節 レンズと球面鏡	・光の分散・散乱等の理解【関】【思】【技】【知】 ・光の干渉の例(ヤングの実験など)【関】【思】【技】【知】
2		第4節 光の回折と干渉(ヤングの実験・回折格子)	・ヤングの実験に関する定量的理解【関】【思】【技】【知】
			・後期期末考査
3		第4節 光の回折と干渉(薄膜の干渉)	・薄膜の干渉に関する定量的理解【関】【思】【技】【知】

理科

教科名	理科	科目名	化学
科目の目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。		
履修学年	2年	類型等	
単位数	2単位	履修形態	必修
教科書	化学(東京書籍)	副教材等	リードα 化学(数研出版) 五訂版スクエア最新図説化学(第一学習社)

①学習の目標

「物質の状態と平衡」

観察、実験を通して溶液の性質について理解を深め、探究する力を身につけ、物質の状態変化、状態間の平衡、固体の構造について定量的に考察できるようにする。

「物質の変化」

反応熱、電気分解、電池、反応速度及び化学平衡についてを観察、実験などを通して探求し、基本的な概念や法則を理解するとともに、化学反応をエネルギーの出入りと関連付けて考察できるようにする。

②学習内容と授業の進め方

上記目標のとおり、授業中心に解説・演示実験を行う。各分野ごとに生徒実験を通して学習した内容を確認すること。

③学習に当たっての留意点

授業時間内では、演習する時間が十分に取ることができないので、家庭学習で取り組むこと。実験による確認ができない内容は、図説(資料)を効果的に活用すること。また、化学基礎で学習する内容が基礎になるので、必要に応じて化学基礎の内容を復習しながら学習すること。

④評価の観点

(1) 関心・意欲・態度 自然の事物・現象に関心を持ち、自らそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。

【関】
(2) 思考・判断 観察・実験などを通して、自然の事物・現象の中に問題を見だし、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的に総合的に考察し、科学的に判断する。

【思】
(3) 観察・実験の技能表現 観察・実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果を的確に表現する。

【技】
(4) 知識・理解 観察・実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

⑤評価の方法

定期考査の結果、授業や実験に取り組む姿勢・態度、実験レポートの内容などにより、総合的に評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点別項目を記入)
4	第1編 物質の状態と平衡		・三態変化とエネルギーの出入りの関係はどうなっているか。 ・気体定数と圧力の単位との関係はどうなっているか。 ・結晶の構造を理解できたか。 ・希薄溶液にはどんな性質があるか。 ・コロイドとはどのような溶液か。 【関】【思】【知】 ・次の実験を通して事物・現象を科学的に探求できたか。【技】【思】 気体の分子量 コロイド
	1章 物質の状態	1 物質の三態 2 気体・液体間の状態変化	
5	2章 気体の性質	1 気体 2 気体の状態方程式	
6	3章 溶液の性質	1 溶解 前期中間考査	
	4章 固体の構造	1 結晶 2 金属結晶の構造	
8		3 イオン結晶の構造	
9		4 その他の結晶と非結晶 前期末考査	
	第2編 化学反応とエネルギー		
9	1章 化学反応と熱・光	1 反応熱と熱化学方程式 2 ヘスの法則 3 化学反応と光	
10			
11	第2章 電池と電気分解	1 電池 2 電気分解 後期中間考査	・化学反応に熱の吸収や発生があるのはなぜか。 ・反応前後の化学エネルギーの差と反応熱の関係を説明できる。 ・電気分解において、電子がどのように作用しているのか。 ・電池はどうして電流が取り出せるのか。 【関】【思】【知】 ・反応速度の表し方は、どのようにするのか。 ・平衡状態とは、どのような状態か。 ・平衡定数が表す内容は何か。 【関】【思】【知】 ・次の実験を通して事物・現象を科学的に探求できたか。【技】【思】 ヘスの法則 電池・電気分解
	第3編 化学反応の速さと平衡		
12	1章 化学反応の速さ	1 反応の速さ 2 反応の速さを決める条件 3 反応のしくみ	
1	2章 化学平衡	1 可逆反応と化学平衡 2 平衡の移動	
2	3章 水溶液中の化学平衡	1 電離平衡 後期末考査	
3		2 塩の水への溶解	

理 科

教科名	理科	科目名	生物
科目の目標	(1) 生物と遺伝子、生物の体内環境の維持や多様性を理解する。 (2) 生物や生命現象について、生物学的な探究の態度、思考力を深める。		
履修学年	2年	類型	
単位数	3単位	履修形態	選択
教科書	高等学校 生物(第一学習社)	副教材等	リードα 生物(数研出版) スクエア最新図説生物neo(第一学習社)

①学習の目標

- (1) 生物が細胞から成り立っていることを理解するとともに、代謝や光合成、呼吸について観察、実験などを通して探究する。また、遺伝情報とタンパク質の合成、細胞内での遺伝子の発現について理解を深め、生命について連続性の概念を考察できるようにする。
- (2) 生殖の方法を観察、実験などを通して探究する。また、複雑な構造を持った個体への発生過程や遺伝の規則性、遺伝子と染色体の関係を理解し、生命について連続性の概念を考察できるようにする。
- (3) 生物体を構成する各器官が連絡しあいながら、全体として秩序ある状態を維持していることを理解し、生物体の反応や行動を日常生活と関連付けて考察できるようにする。

②学習内容と授業の進め方

上記目標のとおり、授業中心に解説・実験を行う。各分野ごとに生徒実験を通して学習した内容を確認する。

③学習に当たっての留意点

- (1) 授業時間内では、演習する時間が十分に取ることができないので、家庭学習で取り組むこと。
- (2) 実験による確認ができない内容は、図説(資料)を効果的に活用すること。

④評価の観点

- | | |
|-----------------------|--|
| (1) 関心・意欲・態度
【関】 | 自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。 |
| (2) 思考・判断
【思】 | 観察・実験などを通して、自然の事物・現象の中に問題を見いだし、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察し、科学的に判断する。 |
| (3) 観察・実験の技能表現
【技】 | 観察・実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果を的確に表現する。 |
| (4) 知識・理解
【知】 | 観察・実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 |

⑤評価の方法

定期考査の結果、授業や実験に取り組む姿勢・態度、実験レポートの内容などにより、総合的に評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法(観点項目を記入)
4	第1章 細胞と分子	(1)生体物質と細胞 (2)細胞膜を介した物質の移動	・生物に共通する細胞レベルでの生命活動について理解できたか。【関】【思】
5	第2章 代謝	(3)生命現象とタンパク質 (1)エネルギー代謝 (2)同化 (3)窒素同化	・生命現象を分子レベルで理解できたか。【関】【思】 ・カタラーゼやペーパークロマトグラフィーの実験を通して事物・現象を科学的に探究できたか。【技】
6		(4)異化	前期中間考査
	第3章 遺伝情報の発現	(1)遺伝情報とその発現 (2)遺伝子の発現調節 (3)バイオテクノロジー	・遺伝の法則性について理解できたか。【関】【思】
7			
8	第4章 有性生殖	(1)減数分裂と受精	・生命の連続性について理解できたか。【関】【思】
9		(2)遺伝子と染色体	前期期末考査
	第5章 動物の発生	(1)配偶子形成と受精 (2)初期発生の過程 (3)細胞の分化と形態形成 (4)器官の形成と細胞の死	・ウニの発生と観察などの実験を通して事物・現象を科学的に探究できたか。【技】【知】
10			
11			
12	第6章 植物の発生	(1)配偶子形成と胚発生	後期中間考査
1	第7章 植物の環境応答	(1)植物の環境応答と植物ホルモン (2)植物の環境応答とそのしくみ	・植物の恒常性や反応を理解できたか。【関】【思】 ・実験やVTRを通して事物・現象を科学的に探究できたか。【技】【知】
2			
3			後期末考査

英語科

教科名	外国語	科目名	コミュニケーション英語Ⅱ
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を伸ばす。		
履修学年	2年	類型	
単位数	4単位	履修形態	必修
教科書	CROWN English CommunicationⅡ(三省堂)	副教材等	CROWN English CommunicationⅡ WORKBOOK Advanced(三省堂) チャンクで英単語 Advanced(三省堂)

①学習の目標

- (1) 事物に関する紹介報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。
- (2) 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。
- (3) 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。
- (4) 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。

②学習内容と授業の進め方

- (1) 予習プリントを活用して、単語や熟語を辞書等で調べる。
- (2) 文章の意味や内容を考え、それに合ったリズムやイントネーションなどを意識して英文を音読する。
- (3) 英語を読んで、おおよその内容や全体的な流れを把握する。
- (4) 発話や音声教材を聞いて、情報や話し手の意向を理解する。
- (5) 語彙や文法事項を理解し、それを活用して情報や考えを伝える。

③学習に当たっての留意点

- (1) 予習プリントを活用し、十分な準備をして授業に臨むこと。
- (2) 教科書・ノート・辞書等を活用し、授業内容の理解に努めること。
- (3) 授業内容は必ず復習し、ワークブック等で知識の定着を図ること。
- (4) 週末課題等に取り組むことを通して、家庭での学習習慣の確立を図ること。

④評価の観点

- (1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。
- (2) 外国語表現の能力
英語で話したり、書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。
- (3) 外国語理解の能力
英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。
- (4) 言語や文化についての
英語やその運用についての知識を身につけているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。

⑤評価の方法

基本的に次の項目を総合して評価する。

- (1) 定期考査の結果
- (2) 週末課題の提出状況
- (3) 小テストの結果
- (4) 授業への参加状況(ペアワークやグループワーク、発表など)

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	Lesson1 A Boy and His Windmil	・主人公の少年が人生を切り開いていく姿を読み取らせる。 ・アフリカの貧困の問題に触れさせる。 ・自分の願望を英語でまとめさせる。	前期中間考査／課題の提出／小テスト ・授業への参加状況・発言 ・質問に対する応答・エッセイ、スピーチなどの組み立て ・音読・スピーチ・エッセイ・ペアワークによるアウトプット ・小テスト・文化事項に関する発表
		【主な言語材料】関係代名詞の非制限用法、不定詞の意味上の主語、動名詞の意味上の主語	
5	Lesson2 Into Unknown Territory	・羽生さんの強さの秘密を考察させる。 ・インタビューの形式に慣れさせる。 ・日本の伝統文化に触れさせる。	
		【主な言語材料】関係副詞の非制限用法 / 受け身・否定の分詞構文 / S+V+O(O=whether節)	
6	Lesson3 Paul the Prophet	・パウル(タコ)の予言が的中し続けた秘密を読み取らせる。 ・動物の予知能力について思い当たることを、英語で簡潔にまとめる ・新聞記事の形式に慣れさせる。	
		【主な言語材料】前置詞+関係代名詞、助動詞+have+過去分詞、It ~that...	
7	Lesson4 Crossing the Border	・貫戸さんの伝えたい想いをしっかり読み取らせる。 ・ボランティア活動をする上で重要なことに気づかせる。 ・自分の経験したボランティア活動について発表させる。 ・貫戸さんの伝えたい想いをしっかり読み取らせる。 ・ボランティア活動をする上で重要なことに気づかせる。 ・自分の経験したボランティア活動について発表させる。	
		【主な言語材料】不定詞+前置詞／完了進行形／強調構文	
8	Lesson5 Txtng--Language in Evolution--	・携帯メール独特の言葉づかいが生まれてきた背景を考えさせる。 ・それについて肯定/否定的な意見で話し合わせる。 ・グラフなどのデータを表現する英語に慣れさせる。	
		【主な言語材料】複合関係詞／不定詞の完了形／比較級+than S+V	
9	Lesson6 Ashura--A Statue with Three Faces--	・人々が阿修羅像に魅かれる理由を考えさせる。 ・絵画を比較し、その感想を発表させる。 ・いわゆる顔文字にも文化の違いが現れることを知る。	
		【主な言語材料】結果を表す不定詞／倒置／無生物主語の他動詞構文	
10	Lesson7 Why Biomimicry?	・自然から「学ぶ」という態度の重要性を考えさせる。 ・自然と人とのつながり、「共生」について考え、他の生徒と共有させる。	
		【主な言語材料】仮定法現在／if 節のない仮定法／未来に関する仮定法	
11	Lesson8 Before Another 20 Minutes Goes By	・本課で地雷について学んだことを、的確にまとめさせる。 ・日本による世界貢献、平和貢献について知る。 ・国際援助をする上での留意点について話し合わせる。	
		【主な言語材料】完了の分詞構文／受け身の進行形／S is C (C=whether節)	
11	Sun-Powered Car	滑稽な物語文を楽しく読む。L1～5の復習	

12	Lesson9 The Long Voyage Home	・「はやぶさ」プロジェクト成功の理由を読み取らせる。 ・将来就きたい職業について、簡潔に英語でまとめさせる。 ・自分の書いた英文をもとに、お互いに発表させる	後期期末考査／課題の／小テスト ・授業への参加状況・発言 ・質問に対する応答・エッセイ、スピーチなどの組み立て ・音読・スピーチ・エッセイ・ペアワークによるアウトプット ・小テスト・文化事項に関する発表
		【主な言語材料】独立分詞構文／未来進行形／未来完了形	
1	Lesson10 Grandfather's Letters	・手紙の利点・欠点、メールの利点・欠点について話し合わせる。 ・想像力を働かせて歴史上の人物に手紙を書かせる。 ・手紙の形式に慣れさせる。	
		【主な言語材料】不定詞の受け身／動名詞の受け身	
2 3	Reading2 A Fall Before Rising	・筆者の心境の変化を意識しながら、朗読させる L1～10の復習	
		速読トレーニング	

英語科

教科名	外国語	科目名	英語ベーシック
科目の目標	さまざまな分野の英語を通じて4技能(聞く・書く・読む・話す)のバランスのとれた、よりハイレベルな英語力の向上を目指す。		
履修学年	2年	類型	
単位数	2単位	授業形態	必修
教科書	リンケージ英語構文100	副教材等	リンケージ英語構文100 総合演習ワーク

①学習の目標

日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力を養う。

②学習内容と授業の進め方

英文の構造及び情報を理解し、自分の考えや意見を整理して書ける力を習得する。特に聞く技能・書く技能において、問題演習に取り組むことにより確認、定着を図る。

③学習に当たっての留意点

(1) 日々の積み重ねが重要となるので、予習して授業に臨み、真剣に授業を受け、授業で理解できなかった事項に関しては、質問するなどして、その日のうちに理解するように努めること。

(2) 自宅学習などで適宜副教材の問題集を活用し、学習を深めること。

④評価の観点

(1) 関心・意欲・態度【関】

コミュニケーションに関心を持ち、英語で書く言語活動を積極的に行い、コミュニケーションを図ろうとする。

(2) 思考・判断【思】

英語の背景にある論理展開を理解し、それによって思考し、判断ができる。

(3) 技能【技】

日常的な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現する。

(4) 知識・理解【知】

基本的なコミュニケーションを実現するための基本的な英語の文法・語彙を知識として持ち、どのように使うべきか理解している。

⑤評価の方法

基本的に次の項目を総合して評価する。

- (1) 定期考査の結果
- (2) 課題(復習プリント)の提出状況
- (3) 小テスト・長期休業明け確認テストの結果
- (4) 授業への参加状況
- (5) 週末課題の提出状況

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	補助教材①	時制の一致 話法 名詞構文	英文の構造と情報の理解を小テスト、定期考査で判断し、学習活動に対する取り組み等を加味し、総合的に判断する。 ・授業に対する取り組み・発言【関】 ・文法事項・英文構造の理解(小テストなど)【思】 ・ペアワーク・英作文など【技】 ・ペアワーク・英作文など【知】 前期中間考査
5	補助教材②	無生物主語 名詞・代名詞 形容詞・副詞	
6	補助教材③	前置詞 接続詞	

7	L1	文型① 第1・2文型 There V+S+場所、It is C to Vなど	前期期末考査
	L2	文型② 第3文型 S+V+to V、S+V+Vingなど	
8	L3	文型③ 第4・5文型 It takes O+O to V、S+V+O thatなど	
	L4	受動態・助動詞 助動詞+have Vp.p.、慣用表現	
9	L5	仮定法 仮定法過去、if節の代用	
	L6	不定詞 3用法、It is C for A to Vなど	英文の構造と情報の理解を小テスト、定期考査で判断し、学習活動に対する取り組み等を加味し、総合的に判断する。 ・授業に対する取り組み・発言【関】 ・文法事項・英文構造の理解(小テストなど)【思】 ・ペアワーク・英作文など【技】 ・ペアワーク・英作文など【知】
10	L7	分詞・動名詞 Ving・Vp.p.の識別、慣用表現	後期中間考査
11	L8	名詞節 等位接続詞、同格のthatなど	後期期末考査
	L9	形容詞節 関係詞、前置詞+関係代名詞など	
12	L10	副詞節 目的、程度・結果など	
1			
2	L11	比較 倍数表現、最上級相当表現	
	L12	否定 部分否定、全体否定など	
3	L13	強調 強調構文、擬似分裂文など	
	L14	倒置・省略 疑問文の語順になる倒置、文要素の倒置など	

体育科

教科名	保健体育	科目名	体育
科目の目標	(1) 自ら体力の向上と把握に務める。 (2) 自主自立の精神とリーダーの育成。 (3) 健康管理と安全教育の徹底。		
履修学年	2年	類型	男子
単位数	2単位	履修形態	必修
教科書		副教材等	

① 学 習 の 目 標

- (1) 各種目の運動技能の習得や体力の向上を図る。
- (2) 自主的に活動し、自主・自立の精神を育成する。
- (3) 安全面、健康面に留意し、活動する。
- (4) グループ活動などを通して、リーダーを育成する。

② 学習内容と進め方

- (1) 個人種目では、全体指導や個別指導をとおして記録や技能の向上をめざす。
- (2) 球技等集団種目では、習得した基礎技能やルールを活かし、楽しくゲームができるようにする。

③ 学 習 の 留 意 点

- (1) 新しい種目については、自己の記録や技能の向上をめざし積極的に活動する。特に基礎技能の反復練習は、効率よく根気強く行うこと。
- (2) 1年からの継続種目について、さらなる技能の向上を目指すとともに、戦術について理解を深める。
- (3) 自分の健康状態や体力面を把握し、無理をしない。
- (4) チームでゲームを行う種目では、リーダーを中心に協力して楽しく活動できるようにする。
- (5) 準備、後かたづけを協力してしっかりと行う。
- (6) 常に安全面に配慮し活動する。特にスキーでは用具の点検・スキー場での接触事故等に十分注意する。

④ 評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
【関】 運動の楽しさ喜びを味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとする。また健康・安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。
- (2) 思考・判断
【思】 自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の合理的な行い方や計画的な活動の仕方を考え工夫している。また健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。
- (3) 運動の技能
【技】 自己の能力と運動の特性に応じた技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につけている。
- (4) 知識・理解
【知】 運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身につけている。また健康・安全について、課題解決に役立つ基礎的事項を理解し、知識を身につけている。

◎ 評 価 の 方 法

⑤ 評価の方法

スキルテストを実施、日常の授業への参加態度とあわせて総合的に評価する。

⑥ 授業計画

月	単元	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	体育理論 3時間	・トレーニングの意義と目的	
4 5 6	陸上(80mH) 体づくり運動 7時間	・ストレッチや体力向上トレーニング ・新体力テスト ・スタートダッシュの練習 ・インターバルのリズムの練習 ・ハードリングの練習	・記録を向上させようと意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・ハードリングのフォームをバランスよく、矯正しようしているか。【思】 ・タイム計測 換算表にもとづき評価する。【技】 ・安全面に配慮し、練習できているか。【知】
6 7 8	水泳(クロール) 6時間	・けのび、キック、腕の動き、呼吸法の練習・総合練習	・より良いフォームで泳ごうと意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・合理的な泳ぎを追求しているか。【思】 ・50mを泳ぎ、距離とフォームを見て評価する。【技】 ・健康面に留意し、安全に練習に取り組んでいるか。【知】
4 5 6 7 8	バレーボール 14時間	・ボールになれる。 ・オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの練習 ・サーブの練習 ・スパイクの練習 ・グループでの連係4対4、簡易ゲーム ・ゲーム	・技術の向上やゲームに意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・技術をゲームの中で、状況に応じて発揮できるか。【思】 ・オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・スパイクのスキルテストを実施し、評価する。【技】 ・ルールを理解し、審判法を知っているか。【知】
9 10	長距離6時間	・少しずつ距離を伸ばしながら持久力をつける。 ・3000M、5000Mの計測。	・記録を向上させようと意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・走るフォームをバランスよく、矯正しようしているか。【思】 ・5000mタイム計測 換算表にもとづき評価する。【技】 ・安全面に配慮し、練習できているか。【知】
10 11	柔道8時間	・受け身(横、後ろ、前回り)の練習・体捌きの練習 ・投げ技の練習 大内刈り、小内刈り、払い腰、送り足払い、背負い投げ ・固め技の練習 肩固め、横四方固め、上四方固め ・連続技の練習 約束稽古など	・技を正確に覚えるなど意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・相手の動きや体勢に応じて有効な技を選んでいるか。【思】 ・移動しながらの投げ技2種目のスキルテストを実施し、評価する。【技】 ・礼儀作法を重視したり、自他の安全に留意しようとしているか。【知】

1 1	バスケットボール 8時間	・ボールになれる。 ・チェストパスなどパス練習 ・各種シュート練習 ・2対2、3対3の攻守 ・グループでの関係、ゲーム	・技術の向上やゲームに意欲的に取り組んでいるか。【関】
1 2			・技術をゲームの中で、状況に応じて発揮できるか。【思】 ・ドリブルシュート、グループでパス回しからシュートのスキルテストを実施し、評価する。【技】 ・ルールを理解し、審判法を知っているか。【知】
1 2	スキー9時間	・技術レベルでA、B、Cにグループ分けして実施 ・プルーク、シュテム、パラレルターンの練習 ・パラレルターン大回り、小回りの練習 ・総合滑降	・よりよい滑走をめざし、意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・滑走のフォームをバランスよく、矯正しようとしているか。【思】 ・パラレルターン大回り、小回りのスキルテストを実施し、評価する。【技】 ・安全面に配慮し、練習できているか。【知】
2	体育理論 3時間	・トレーニングの意義と目的	
3	選択 6時間	・球技大会の種目（バレーボール・バスケットボール・卓球など）をリーダーを決め、自主的に練習する。	・リーダー中心に意欲的に練習に取り組んでいるか。【関】 ・チーム力をあげるために戦術面など工夫しようとしているか。【思】 ・グループ内で協力し、準備、後かたづけなど円滑に行っているか。【知】

体育科

教科名	保健体育	科目名	体育
科目の目標	(1) 自ら体力の向上と把握に務める。 (2) 自主自立の精神とリーダーの育成。 (3) 健康管理と安全教育の徹底。		
履修学年	2年	類型	女子
単位数	2単位	履修形態	必修
教科書		副教材等	

① 学 習 の 目 標

- (1) 各種目の運動技能の習得や体力の向上を図る。
- (2) 自主的に活動し、自主・自立の精神を育成する。
- (3) 安全面、健康面に留意し、活動する。
- (4) グループ活動などを通して、リーダーを育成する。

② 学習内容と進め方

- (1) 個人種目では、全体指導や個別指導をととして記録や技能の向上をめざす。
- (2) 球技等集団種目では、習得した基礎技能やルールを活かし、楽しくゲームができるようにする。
- (3) 選択種目では、集まった仲間と工夫して自主的に活動する。

③ 学 習 の 留 意 点

- (1) 新しい種目については、自己の記録や技能の向上をめざし積極的に活動する。特に基礎技能の反復練習は、効率よく根気強く行うこと。
- (2) 1年からの継続種目について、さらなる技能の向上を目指すとともに、戦術について理解を深める。
- (3) 自分の健康状態や体力面を把握し、無理をしない。
- (4) チームでゲームを行う種目では、リーダーを中心に協力して楽しく活動できるようにする。
- (5) 準備、後かたづけを協力してしっかりと行う。
- (6) 常に安全面に配慮し活動する。特にスキーでは用具の点検・スキー場での接触事故等に十分注意する。

④ 評価の観点

- | | |
|---------------------|--|
| (1) 関心・意欲・態度
【関】 | 運動の楽しさ喜びを味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとする。また健康・安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。 |
| (2) 思考・判断
【思】 | 自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の合理的な行い方や計画的な活動の仕方を考え工夫している。また健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。 |
| (3) 運動の技能
【技】 | 自己の能力と運動の特性に応じた技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につけている。 |
| (4) 知識・理解
【知】 | 運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身につけている。また健康・安全について、課題解決に役立つ基礎的事項を理解し、知識を身につけている。 |

⑤ 評価の方法

スキルテストを実施、日常の授業への参加態度とあわせて総合的に評価する。

⑥ 授業計画

④評価の観点を以下【関】【思】【技】【知】とする。

月	単元	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	体育理論 3時間	・トレーニングの意義と目的	
4 5 6	陸上(走幅跳) 体づくりトレーニング 7時間	・ストレッチや体力向上トレーニング ・新体力テスト ・立ち幅跳び、立ち三段跳びの練習 ・助走から踏切の練習 ・記録計測	【関】記録を向上させようと意欲的に取り組んでいるか。 【思】踏み切りのタイミング、方向など、矯正しようしているか。 【技】記録計測 換算表にもとづき評価する。 【知】安全面に配慮し、練習できているか。
6 7 8	水泳(クロール) 6時間	・けのび、キック、腕の動き、呼吸法の練習・総合練習	【関】より良いフォームで泳ごうと意欲的に取り組んでいるか。 【思】合理的な泳ぎを追求しているか。 【技】50mを泳ぎ、距離とフォームを見て評価する。 【知】健康面に留意し、安全に練習に取り組んでいるか。
4 5 6 7 8	バレーボール 14時間	・ボールになれる。 ・オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの練習 ・サーブの練習 ・スパイクの練習 ・グループでの連係4対4、簡易ゲーム ・ゲーム	【関】技術の向上やゲームに意欲的に取り組んでいるか。 【思】技術をゲームの中で、状況に応じて発揮できるか。 【技】オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・スパイクのスキルテストを実施し、評価す 【知】ルールを理解し、審判法を知っているか。
9 10	長距離6時間	・少しずつ距離を伸ばしながら持久力をつける。 ・3000Mの計測。	【関】記録を向上させようと意欲的に取り組んでいるか。 【思】走るフォームをバランスよく、矯正しようしているか。 【技】3000mタイム計測 換算表にもとづき評価する。 【知】安全面に配慮し、練習できているか。

1 0 1 1	バスケットボール 8時間	・ボールになれる。 ・チェストパスなどパス練習 ・各種シュート練習 ・2対2、3対3の攻守 ・グループでの連係、ゲーム	【関】技術の向上やゲームに意欲的に取り組んでいるか。 【思】技術をゲームの中で、状況に応じて発揮できるか。 【技】ドリブルシュート、グループでパス回しからシュートのスキルテストを実施し、評価 【知】ルールを理解し、審判法を知っているか。
1 1 1 2	ダンス8時間	・動きの研究（イメージを動きに置き換える） ・小作品づくり（テーマ設定、創作、踊り込み） ・発表、他のグループの作品鑑賞	【関】体を積極的に動かし、意欲的に取り組んでいるか。 【思】イメージを動きに変える工夫がなされているか。 【技】発表会およびグループ間相互評価を行う。 【知】グループで協調し、創作・発表できているか。
1 2	スキー9時間	・技術レベルでA、B、Cにグループ分けして実施 ・プルーク、シュテム、パラレルターンの練習 ・パラレルターン大回り、小回りの練習 ・総合滑降	【関】よりよい滑走をめざし、意欲的に取り組んでいるか。 【思】滑走のフォームをバランスよく、矯正しようしているか。 【技】パラレルターン大回り、小回りのスキルテストを実施し、評価する。 【知】安全面に配慮し、練習できているか。
2 3	体育理論 3時間 選択 6時間	・トレーニングの意義と目的 ・球技大会の種目（バレーボール・バスケットボール・卓球など）をリーダーを決め、自主的に練習する。	【関】リーダー中心に意欲的に練習に取り組んでいるか。 【思】チーム力をあげるために戦術面など工夫しようしているか。 【知】グループ内で協力し、準備、後かたづけなど円滑に行っているか。

体育科

教科名	保健体育	科目名	保健
科目の目標	(1)個人及び社会生活における健康・安全について理解を深める。 (2)生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。		
履修学年	2年	類型	
単位数	1単位	履修形態	必修
教科書	現代高等保健体育(大修館)	副教材等	図説・現代高等保健(大修館)

① 学 習 の 目 標

- (1)ヘルスプロモーションの考え方を生かし、健康に関する個人の適切な意志決定や行動選択及び健康的な社会環境づくりの重要性について理解を深める。
- (2)生涯の各段階における健康課題への対応と保健・医療制度や地域の保健・医療機関の適切な活用及び社会生活における健康の保持増進について理解できる。
- (3)心身の健康の保持増進を図るための実践力を育成する。

② 学習内容と進め方

(1)現代社会と健康

現代社会のさまざまな健康問題に関して理解する。

(2)生涯を通じる健康

生涯の各段階における健康課題に応じた自己の健康管理の必要性和保健・医療制度及び保健・医療機関の適切な活用の重要性を理解する。

(3)社会生活と健康

健康の実現のための環境づくりを推進することの必要性を理解する。

③ 学 習 の 留 意 点

- (1)健康に関する興味・関心をもつこと。
- (2)これから生きていくうえで起こりうる健康課題や身近な環境と健康のかかわりを理解する。
- (3)学んだことを実生活に生かせるような力を身につける。

④評価の観点

- (1)関心・意欲・態度
【関】健康の保持増進に必要な事柄について関心を持ち、意欲的に学習しようとしているか。
- (2)思考・判断
【思】健康の保持増進に必要な事柄について、自分のこれまでの学習や体験をもとに、解決の方法を考え、判断しているか。
- (3)知識・理解
【知】健康を保持増進するためには、適切な生活行動を選択し、実践すること及び環境を改善していく努力が必要であることを理解しているか。

⑤ 評 価 の 方 法

定期考査(前期期末、後期期末)を2回実施し、日常の学習活動とあわせて総合的に評価する。

⑥ 授 業 計 画

月	単元	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
	オリエンテーション	授業内容についてのオリエンテーション	
4	生涯を通じる健康	1 思春期と健康	・生涯を通じる健康についての課題に関心を持っているか。【関】
		2 性意識と性行動の選択	
5		3 結婚生活と健康	
		4 妊娠・出産と健康	
6		5 家族計画と人工妊娠中絶	
		6 ビデオ・家族計画	
7		7 加齢と健康	・生涯を通じる健康について、日常生活にあてはめ、適切な行動が選択できるか。【思】
		8 高齢者のための社会的取り組み	

8		9 保健制度とその活用	
		10 医療制度とその活用	
9	生涯を通じる健康	11 医薬品と健康	
		12 さまざまな保健活動や対策	前期期末考査
10			
11		1 大気汚染と健康	・社会生活と健康についての課題に関心を持っているか。【関】
		2 水質汚染・土壌汚染と健康	
12		3 健康被害の防止と環境対策	・社会生活と健康について、日常生活にあてはめ、適切な行動が選択できるか。【思】
		4 環境衛生活動のしくみと働き	
1	社会生活と健康	5 食品衛生活動のしくみと働き	
		6 食品と環境の保健と私達	・社会生活と健康について知っているか。【知】
		7 働くことと健康	
2		8 労働災害と健康	
		9 健康的な職業生活	
3			後期期末考査
※1～2月については、スキー授業1回を体育3時間分・保健1時間分に振り替えて実施します。			

芸術科

教科名	芸術	科目名	音楽Ⅰ
科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。		
履修学年	2年	類型	文系・理系共通
単位数	1単位	履修形態	選択
教科書	音楽Ⅰ Tutti(教育出版)	副教材等	適宜

①学習の目標

- (1) 音楽への関心を深め、意欲的に音楽活動に取り組む態度を身につける。
- (2) 音楽的な感性を高め、表現したり鑑賞する能力を養う。

②学習内容と授業の進め方

- (1) 表現分野では、世界の歌を通して基本唱法を修得する。
- (2) 鑑賞分野では、交響曲や歌劇、ミュージカルなど幅広く映像を通して鑑賞する。

③学習に当たっての留意点

- (1) 歌唱においては、基本を大切に発声や歌い方を学ぶこと。
- (2) 我が国や諸外国の文化への理解を深めること。
- (3) いろいろな作品との出会いから、新たな発見と感動を体験すること。

④評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
【関】 芸術を愛好し、芸術文化を尊重するとともに、個性を生かして意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。
- (2) 芸術的な感受や表現の工夫【芸】 感性を働かせて芸術のよさや美しさを感じ取り、創造的に表現を工夫する。
- (3) 創造的な表現の技能【創】 創造的な芸術表現をするために必要な技術を身に付けている。
- (4) 鑑賞の能力
【鑑】 芸術を理解し、そのよさや美しさを深く味わう。

⑤評価の方法

- (1) 表現分野では、実技テストを実施し、発声法や表現などを評価する。
- (2) 日常の学習活動への参加態度を評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4 9	歌唱	歌唱指導 日本の歌「早春賦」 シャンソン「愛の讃歌」 ドイツリート「美しい五月に」	独唱 暗譜テスト 【関】【芸】【創】【鑑】
	楽典	和音(主要三和音、副三和音、属七和音)コードネーム 関係調、五度圏、調号、 音階(長調、短調(自然、和声、旋律短音階))	
	鑑賞	鑑賞指導 歌劇「魔笛」 天使にラブソングを その他	
10 3	器楽	津軽三味線の奏法(黒田節、あどはだりパートⅠ) 日本の歌「平城山」 カンツォーネ「オー・ソーレ・ミオ」 シャンソン「枯葉」	独唱 暗譜テスト 【関】【芸】【創】【鑑】
	鑑賞	ベンハー その他	

芸術科

教 科 名	芸術	科 目 名	美術 I
科目の目標	文化や国際理解、豊かな心や情操の育成。美的表現力の向上、主体的かつ豊かな生き方が出来る力を養う。		
履修学年	2年	類 型	文系・理系共通
単 位 数	1単位	履 修 形 態	選択
教 科 書	高校美術1(日本文教出版)	副 教 材 等	適宜

①学習の目標

自己表現力を高める活動を通して、幅広く文化を理解し、心豊かな生活を作り出す力を培う。

②学習内容と授業の進め方

- (1) 絵画 ア デッサン力を付け、色彩、構成、材料、用具の生かし方を学ぶ。
 イ 目に見えるものの表現、想像力や心の表現を学ぶ。
- (2) デザイン ア 様々な造形要素を理解し、どう作り上げるかを学ぶ。
 イ 意図に合わせた表現方法の工夫を学ぶ。
- (3) 鑑賞 ア 自然や作品の中からそのよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図に迫り、自分の表現に生かす。
 イ 人間と自然、国や民族を理解し、様々な文化の特質を学ぶ。

③学習に当たっての留意点

- (1) 課題の導入を理解し、資料、作品を参考にして材料や用具を生かしていくこと。
- (2) 制作を計画的に進め、最後まで集中して大切に仕上げていくこと。
- (3) 自己評価したり他の作品を鑑賞したりして、お互いに高めてゆくこと。
- (4) 自己表現であることを確認しつつ、自分の作品に誇りを持つこと。

④評価の観点

- | | |
|-------------------------|--|
| (1) 関心・意欲・態度
【関】 | 芸術を愛好し、芸術文化を尊重するとともに、個性を生かし意欲的、主体表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。 |
| (2) 芸術的な感受や表現の工夫
【芸】 | 感性を働かせて芸術の良さや美しさを感じ取り、創造的に表現を工夫する。 |
| (3) 創造的な表現の技能
【創】 | 創造的な芸術表現をするために必要な技術を身につけている。 |
| (4) 鑑賞の能力
【鑑】 | 芸術を理解し、その良さや美しさを深く味わう。 |

⑤評価の方法

- (1) 完成作品をもとに課題のねらいの達成度を評価する。
- (2) 制作過程での努力の姿勢、工夫の跡を評価する。
- (3) 自己評価表、自評文等を参照し、評価する。
- (4) 日常の学習活動への参加態度、積極性を評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)	
4 5 6	油絵「自画像」	○自分を見つめ、自分を考え、自分を表現する ・人体全体から胸部、頭部のバランスをとらえ、そこから表出される表情をつかむ。 ・立体感、空間、量を考える、色の性格など、油絵の効果的な表現の工夫	学習内容の理解と積極的な姿勢、態度、工夫を作品を通して総合的に評価する。 ・課題 ・レポート ・ラフスケッチ ・作品(プロセス) ・自己評価	・観察 ・美に対する心 ・日常の中の美に対する考え ・心の表現 ・内面の表現 ・自分を現す ・美術の発展(新しい美の考え方・表し方)
7 8 9 10	油絵「抽象画」	○現代絵画の理解 ・点、線、面、形の造形要素の理解 ・具象から単純化や部分分解と誇張化 ・偶然による形、自由曲線等抽象の考え方 ○造形要素(色、形、材質)の組み合わせによる作者の意図の表現	・自己評価	
11 12	アクリル画「シュールレアリズム」	○心象の世界、超現実主義的表現 ・複雑な現状の中にある自己を見つめて、その内面を表現してみる。 ・「想像・空想の世界」を自由に表現してみる。	【関】 【芸】 【創】 【鑑】	
1 2 3	鑑賞	○造形活動の歴史と人間生活の文化		

芸術科

教科名	芸術	科目名	工芸 I
科目の目標	デザインと作成の活動を通して、工芸を愛好する心情を養う。		
履修学年	2年	類型	文系・理系共通
単位数	1単位	履修形態	選択
教科書	高等学校工芸 I (日本文教出版)	副教材等	適宜

①学習の目標

- (1) 工芸への関心を深め、生活への役立ちを思考する態度を養う。
- (2) 知、情、意の調和のとれた人間性を育成する。

②学習内容と授業の進め方

- (1) 表現
 - イ) 美的秩序を意図した形を工夫する。(デザイン)
 - ロ) 目的や条件を明確にした構想を練る。(機能)
 - ハ) 材料の特性を理解し、用具やその技法を工夫する。
- (2) 鑑賞
 - イ) 工芸の良さや美しさに着目し、生活との関連を考える。
 - ロ) 機能、材料、構造、技術を含めた鑑賞をする。

③学習に当たっての留意点

- (1) スケッチ、製図、模型製作による計画(手順、方法)の吟味をすること。
- (2) 材料、用具の理解と安全を考えた技法を工夫すること。
- (3) 常により美しい効果を目指す工夫をすること。

④評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
【関】 芸術を愛好し、芸術文化を尊重するとともに、個性を生かし意欲的、主体表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。
- (2) 芸術的な感受や表現の工夫
【芸】 感性を働かせて芸術の良さや美しさを感じ取り、創造的に表現を工夫する。
- (3) 創造的な表現の技能
【創】 創造的な芸術表現をするために必要な技術を身につけている。
- (4) 鑑賞の能力
【鑑】 芸術を理解し、その良さや美しさを深く味わう。

⑤評価の方法

- (1) デザインが機能、材料の特性を理解したものが、美的な工夫がなされているかを評価する。
- (2) 常により美しい効果を目指す工夫をしているかを評価する。
- (3) 安全を考えた技法、手順の工夫をしているかを評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	金属工芸	・金属による造形表現、その特徴と広がり の理解 ・金属でつくる楽しさ、喜びを通して、その美しさの理解、材質の特性、用具の扱い方、技法、安全	学習目標の理解 ・考え方 ・工夫 ・参加態度
5 6	「あかり」の製作 (照明器具)	・美的効果、機器 ・形の工夫、アイデアの表示 ・模型による検討、工夫	・自己評価 ・課題 ・レポート
7 8 9	銅板による表現 (各パーツ作成)	・製作手順の理解 ・銅板の特性と表現の可能性 ・予想される危険と安全の工夫、配慮 ・製作用具の理解と使い方の工夫 ・技法の理解(安全、効果的、効率的)	作品を通して総合的に評価する。 【関】 【芸】 【創】 【鑑】
10 11 12	七宝焼きによる パーツの工夫	・テクスチャーの表現 ・表現の工夫 ・製作手順と安全配慮 ・効果的表現	
1 2 3	鑑賞	・パーツ組み立て ・金属工芸と生活と美	・金属の歴史と生活の中での工芸品の関わり、広がり ・造形的創造活動—工芸 ・昔の工芸品、今の工芸品—発展 ・自然と工芸、機能と美

芸術科

教科	芸術	科目名	書道Ⅰ
科目の目標	本校における「書道Ⅰ」では、書芸術に対する理解、および感性・創造性の育成、ならびに表現力の向上を目指すとともに、書を通して主体的に生き、さらには生きがいと潤いのある生活が送れる基礎的な力を養うことを目標とする。		
履修学年	2年	類型	文系・理系共通
単位数	1単位	履修形態	選択
教科書	教育出版書道Ⅰ	副教材等	墨心(北海道高等学校書道教育研究会)

①学習の目標

表現および鑑賞の諸活動を通じて、書芸術を理解するとともに、青年らしい感性および個性の伸長を図り、生活をより豊かにしようとする創造性の基礎を培う。

②学習内容と授業の進め方

- (1) 書の表現には多様な方法、無限の可能性があることを学ぶ。
- (2) 創作書において、主体的・創造的な語・詩文の獲得をめざす。
- (3) 古典に基づく表現を理解し、その用筆・技法を学ぶ。
- (4) 母校、郷土及び平和に関する教材を学び、人格形成を図る。

③学習に当たっての留意点

本校「書道Ⅰ」の履修にあたって留意すべきことの最低ラインは、次の5点とする。

- (1) 忘れ物をしない。早く教室に集合し、準備をする。
- (2) その時間ごとの準備、作品ごとの制作上の留意点の確認を怠らない。
- (3) 常に題材とする語・詩文の取材、収集に努める。
- (4) 常に前回より、前の一枚より、一歩前進、工夫・向上の跡を残すよう努める。
- (5) 「習字」と呼ばない。「書」を学んでいることに誇りを持つ。

④評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
【関】 芸術を愛好し、芸術文化を尊重するとともに、個性を生かして意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。
- (2) 芸術的な感受や表現の工夫【芸】 感性を働かせて芸術のよさや美しさを感じ取り、創造的に表現を工夫する。
- (3) 創造的な表現の技能【創】 創造的な芸術表現をするために必要な技術を身に付けている。
- (4) 鑑賞の能力
【鑑】 芸術を理解し、そのよさや美しさを深く味わう。

⑤評価の方法

- (1) 作品ごとに、上から5～1の5段階表示をし、当該作品制作における「ねらい」が概ね達成されているものを3(並)とする。
- (2) 学期ごとの評価は、当該学期内の作品評価点をベースとし、努力の姿勢、向上の跡、工夫の跡などが見られる場合には加点し、反対の場合は減点する。その際、上記③の5項目についても評価の観点とする。なお、評価点は、教務内規に則り、100点法で表示をする。
- (3) 学年評価は、上記(2)の方法により、年間を通して算出する。
- (4) 評定は、学年評価を教務内規によって換算し、5段階表示をする。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4 5	テーマ作品制作①	「詩を書く」宮沢賢治の詩を読み、得たイメージを膨らませて作品化する。 相互に作品を鑑賞し、書の表現効果を理解する	1 書的美を理解しようとし、進んで自ら書の表現に努めようとしているか。 【関】【鑑】 2 作品の題材としてふさわしい選文および用具用材の選定ができるか。 【芸】【創】
6 7	漢字の書 生活の書	「書体の変遷」臨書作品制作(篆・隸・行)うちわ制作	3 表現意図に即した線質・造形・墨色・紙面構成がなされているか。 【芸】【創】 4 用具用材の特性、表現効果などを理解しているか。 【創】
8 9	テーマ作品制作②	「学校関連作品」校歌を合作にて作品化 大字作品	
10 11	学生展出品作品制作	展覧会出品作品制作(北海道学生書道展)	1 書的美を理解しようとし、進んで自ら書の表現に努めようとしているか。 【関】【鑑】 2 作品の題材としてふさわしい選文および用具用材の選定ができるか。 【芸】【創】 3 表現意図に即した線質・造形・墨色・紙面構成がなされているか。 【芸】【創】 4 用具用材の特性、表現効果などを理解しているか。 【創】
12	テーマ作品制作④	「北人」「シマレガンバレ」(アルバム)題字制作 「先輩へのエール」作品制作、全員展示 「自分へのエール」カレンダー作品	
1 2	仮名の書 テーマ作品制作⑤	基本的な線質・連綿の技法・作品制作 色紙作品制作	
3	年間のまとめ	作品鑑賞、年間反省	

情報科

教科名	情報	科目名	社会と情報
科目の目標	コンピュータやネットワークを活用し、問題解決方法を自ら創造的に解決できるようになる素養を身に着ける		
履修学年	2年	類型	文系・理系共通
単位数	2単位	履修形態	必修
教科書	社会と情報(日本文教出版)	副教材等	新・社会と情報(日本文教出版)

①学習の目標

- (1) 情報のデジタル化や情報通信ネットワークの特性を理解する。
- (2) 表現やコミュニケーションにおいて、コンピュータなどを効果的に活用する能力を身に付ける。
- (3) 情報化の進展が社会に及ぼす影響を理解し、望ましい情報社会の在り方を考える。

②学習内容と授業の進め方

- (1) コンピュータの内部では、文字・音声・画像・動画はどのように記録されているか、それをどのように処理するか、その仕組みを科学的に理解する。
- (2) 情報通信とネットワーク社会の基幹を作っている情報技術が実際の社会でどのように用いられているか、その影響も考慮しながら考えられるようにする。
- (3) WWWサーバ等の各種サーバの仕組みを理解する。

③学習に当たっての留意点

教室で学習した内容をコンピュータ教室の実習作業によって理解を深める。逆に、コンピュータ教室で実習した内容を教室で、学習を再確認するように心がけること。

④評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
 - 【関】さまざまな情報伝達手段・ネットワークへの興味関心をもち、使いこなす準備ができるようにする。
- (2) 思考・判断
 - 【思】情報の適切な処理方法を考察できるようにする。
- (3) 技能
 - 【技】テキスト処理、音声信号処理、画像処理ソフトを総合的に使えるようにする。
- (4) 知識・理解
 - 【知】音声信号・画像・テキストデータの情報伝達方法やネットワークの理解。

⑤評価の方法

実習課題、レポート、定期考査、学習活動への参加の意欲・態度によって総合的に判断する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	第2章 ネットワークでかわる社会 第1節 社会で利用されている情報システム	さまざまな情報システム ネットワークでつながる情報システム データベースのしくみ	【関】【思】 前期中間考査 【知】 PowerPoint・Excelの活用 【技】 後期期末考査 【知】
5	第2節 ネットワークのしくみ	コンピュータネットワーク ネットワークを支える技術	
6		インターネット上のさまざまなサービス 共有とセキュリティ 正確で効率的な情報の伝達	
7～9	【情報活用テキスト～実習】 第3章 プレゼンテーションソフトの活用		
10,11	第6章 表計算ソフトの活用		
12～3	【情報活用ノート】	「情報」活用テキストの確認問題 P検4級模擬問題 P検3級模擬問題	